

第1回 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 運動・スポーツ部会 次第

令和7年7月1日（火）

午後3時00分～午後5時00分

足立区役所本庁舎別館 2階 201会議室

- 1 新委員の紹介・委嘱状交付 ≪資料1≫
- 2 第2回全体会における意見及び今後の方針 ≪資料2≫
- 3 3分野計画の評価について ≪資料3～資料6-3≫
 - (1) 活動指標管理表・施策評価シート（令和6年度実施分）
 - (2) 評価体系・評価基準
 - (3) これまでの評価実施状況
- 4 新計画策定に向けたアンケート質問項目について ≪資料7-1～資料7-2≫
≪参考1-1～参考1-2≫
- 5 質疑応答・意見交換
- 6 今後の予定
 - (1) 第2回 運動・スポーツ部会
日時：令和7年8月26日（火）
主な議題：運動・スポーツ分野における評価結果、アンケート質問項目の決定
 - (2) 第3回 全体会
日時：令和7年9月中旬～下旬
主な議題：各部会における審議結果の共有、全体としての意見調整

【配布資料】

- 資料 1 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿
- 資料 2 第 2 回全体会における意見及び今後の方針
- 資料 3 足立区運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表（令和 6 年度実施分）
- 資料 4 足立区運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和 6 年度実施分）
- 資料 5 - 1 足立区文化・読書・スポーツ推進計画 評価体系
- 資料 5 - 2 足立区文化・読書・スポーツ推進計画（2 次・3 次評価） 評価基準
- 資料 6 - 1 足立区運動・スポーツ推進計画 評価実施状況（令和 3 年度）
- 資料 6 - 2 足立区運動・スポーツ推進計画 評価実施状況（令和 4 年度）
- 資料 6 - 3 足立区運動・スポーツ推進計画 評価実施状況（令和 5 年度）
- 資料 7 - 1 アンケート質問項目検討表（事務局案・16 歳以上用）
- 資料 7 - 2 アンケート質問項目検討表（事務局案・小 5・中 1 用）

（参考）

- 参考 1 - 1 令和 3 年度 アンケート調査票（16 歳以上用）
- 参考 1 - 2 令和 3 年度 アンケート調査票（小 5・中 1 用）

足立区文化・読書・スポーツ推進委員会 委員名簿

区分	氏名	役職・団体等	部会
学識経験者 【会長】	いわ なが まさ や 岩 永 雅 也	放送大学 学長	-
学識経験者 【部会長】	にし おか たつ ひこ 西 岡 龍 彦	東京藝術大学 名誉教授	文化芸術
	こ いずみ ひろし 小 泉 ひろし	足立区議会議員	文化芸術
	おぎ の み え こ 荻 野 美恵子	東京都盲人福祉協会 女性部会長	文化芸術
	か さい たか ゆき 葛 西 啓 之	株式会社いのちとぶんか社 代表取締役社長	文化芸術
	そげ じま けん 傍 嶋 賢	SOBAJIMA STUDIO 代表	文化芸術
	た じま のぞみ 田 島 のぞみ	区民（公募）	文化芸術
学識経験者 【部会長】	はら だ たか し 原 田 隆 史	八州学園大学 教授	読書
	かわ むら みこと 川 村 みこと	足立区議会議員	読書
	こう そ と き こ 高 祖 常 子	子育てアドバイザー／キャリアコンサルタント	読書
	た ぐち みき と 田 口 幹 人	合同会社未来読書研究所 代表	読書
	なが おき りゅう じ 長 沖 竜 二	図書館総合展運営委員会 事務局長	読書
	なか の り さ 中 野 理 紗	区民（公募）	読書
	ふる せ きよ み 古 瀬 清 美	区民（公募）	読書
学識経験者 【部会長】	みぞ ぐち のり こ 溝 口 紀 子	日本女子体育大学 教授	運動・スポーツ
	いとう のぶゆき 伊藤 のぶゆき	足立区議会議員	運動・スポーツ
	き むら じゅん べい 木 村 潤 平	パラリンピックトライアスロン選手 （一般社団法人ChallengeActiveFoundation 代表理事）	運動・スポーツ
	た なか ひろ子 田 中 ひろ子	公益財団法人足立区スポーツ協会 会長	運動・スポーツ
	はし やま たけし 栢 山 猛	株式会社サンベルクスホールディングス スポーツクラブ事業部 事業部長	運動・スポーツ
	なか むら しげ お 中 村 重 男	区民（公募）	運動・スポーツ

第 2 回全体会における意見及び今後の方針

1 現在の 3 分野計画の評価について

No	意見	今後の方針
1	<過去の評価資料の提供について> 今後の評価にあたり、過去にどのように助言や評価がなされ、それに対してどのように対応がなされたか、といった資料についても、提供していただきたい。 【中村委員（公募区民）】	令和 3～5 年度の評価報告書（議会報告済み）に記載された「委員会からの助言」「助言に対する区の対応」を分野ごとに整理のうえ、第 1 回部会の開催前に情報提供する。
2	<他の分野への意見について> 今後の評価にあたり、自分が所属する部会（分野）以外の他の分野へも、意見を出していきたい。 【田島委員（公募区民）】	各部会の議論の中では、他の部会に属する委員から提出された意見についても、部会の中で取り上げ、議論の参考としていく。
3	<令和 8 年度目標値の考え方について> 事業により、令和 8 年度目標値が令和 7 年度目標値を下回る場合があるが、どのような考え方によるものなのか。 【岩永会長】	令和 8 年度目標値は、現在の計画の中間改定時に設定し、計画期間中は固定している。 令和 9 年度からの新計画の策定にあたっては、必要により、見直しを検討していく。
4	<評価調書以外の情報提供について> 今後の評価にあたり、評価調書以外にも、情報提供をいただきたい。 【田島委員（公募区民）】	今後、パンフレットやチラシなどの参考資料について、要望に応じて適宜提供していく。
5	<指標の追加について> 今後の評価にあたり、必要により、新たな指標の追加も検討するべきではないか。 【中村委員（公募区民）】	令和 6 年度実績の評価は、現在設定している指標で実施する。 令和 9 年度からの新計画の策定にあたっては、指標の追加も含め、見直しを検討していく。
6	<評価体系資料の改善について> 事務局と推進委員会の役割に、やや分かりにくい点があるため、修正をお願いしたい。 【古瀬委員（公募区民）】	修正のうえ、改めて提供する。

2 新しい3分野計画の策定に向けたアンケート調査について

No	主な意見	今後の方針
1	<対象者数について> 対象者数を8,000件から3,000件に減らすとのことだが、有効回答数が約35%であることを踏まえて、分析に問題は無いのか。 【高祖委員（有識者）】 アンケート調査の性質上、対象者数に関わらず、どうしても偏りは発生する。 対象者数を減らすことで、1つ1つの集団が小さくなり、偏りが際立ってしまう可能性もあるが、分析方法を工夫することで、技術的にクリアできると考えている。 【岩永会長】	対象者数については、当初の想定どおり、3,000件で実施する。
2	<実施方法について> 実施にあたり、紙とQRコードの併用を検討してみてもどうか。 【高祖委員（有識者）】	令和3年度実施時は、紙とQRコードを併用していた。 今回も、同様の方法による実施を検討していく。
3	<調査票の質問順について> 質問順についても、検討範囲となるか。 【長沖委員（有識者）】	質問順については、部会での議論を踏まえて、検討していく。
4	<アンケート目的の記載について> 調査票にはアンケート目的が記載されていないが、回答者への分かりやすさを踏まえ、記載したほうがよいのではないか。 【しづや委員（区議会議員）】 アンケート調査では、回答者の回答内容に影響を与えないよう留意する必要もある。 調査票に記載するか別刷りとするか、また、何をどの程度まで記載するかについては、部会だけではなく、全体会で検討すべきだと考える。 【岩永会長】	令和3年度実施時は、アンケート目的を別刷りで封入していた。 今回、どのように実施するかについては、今後の部会、及び全体会での議論を踏まえて、検討していく。

No	主な意見	今後の方針
5	<外国籍・障がい者への対応について> 外国籍の方への配慮といった視点から、調査票ヘルビを振るだけではなく、例えば、3か国語を用意するといった対応も必要なのではないか。 【大竹委員（区議会議員）】 障がい者の方への調査については、障がいの状況により課題が異なるという点も考慮する必要があるのではないかと。 【古瀬委員（公募区民）】 外国籍の方や障がい者の方は、全体から見ると、やはり非常に数が少ない。 量を取るアンケートで、何種類も調査票を用意するよりも、1つ1つのテーマや問題について、深く話を聞くことができるヒアリング調査の方がよい、という考え方もある。 【岩永会長】	外国籍の方・障がい者の方への対応については、今後の部会、及び全体会での議論を踏まえて、検討していく。

3 アンケート調査に係る有識者の出席について

No	主な意見	今後の方針
1	<外部有識者の出席について> 推進委員会としての議論を深め、より良い結果を導いていくため、今後、放送大学次世代教育研究センターの森村特命研究員に、審議会へ出席を求め、意見を聴いていきたい。 【岩永会長】 ※ <u>足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例第6条3、及び第8条による審議の結果、出席委員の過半数の賛成を得たため、推進委員会として決定</u>	推進委員会の決定を受けて、今後、必要により、森村特命研究員へ、審議会への出席を求め、意見を聴いていく。

※ 足立区文化・読書・スポーツ推進委員会条例（抜粋）

（第6条3）

委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは会長の決するところによる。

（第8条）

委員会は、必要があると認めるときは、委員以外のものの出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

資料 3

【達成度欄】評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	R30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1 運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり	1-1 子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむきっかけづくり	1	継続	足立親子野球教室	事業の定員に対する参加率・参加人数	年1回開催（定員：100組200人） （平成30年度は222人が参加）	100%	95%	76%	80%	100%	90%	A	【総括】 令和5年度から引き続き当日のキャンセルを見込み20組多く当選とした。当日の天候は良く、当選者を増やしたこともあり、参加率は令和5年度よりも増加した。子どもたちにとって楽しい体験、親にとっては子どもの新たな一面を見つける機会になり、スポーツを始めるきっかけづくりに寄与した。 【事業の目的（施策への貢献）】 ボール遊びを通じて、身体を動かすことの楽しさを学び、スポーツを始めるきっかけを作ると同時に、親子のコミュニケーションを深める機会を提供することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 幼少期のうちからスポーツを始めるきっかけづくりとなりえる事業である。 【事業の周知】 区内保育園・幼稚園へのチラシ配布により周知した。	100%		100%	スポーツ振興課
		2	継続	関東女子フットサルリーグ in 足立	事業参加者数	イベントの来場者数（年1回開催） ※観戦会と、親子体験教室（定員：40組80名）を実施	711人	88人	121人	468人	300人	710人	A	【総括】 親子フットサル体験会の募集人数を増やしたことにより、令和5年度より多くの方に体験会に参加していただくことができた。また年齢層を広げたことは未だ学児へのスポーツを始めるきっかけづくりに寄与した。実施日を夏休み期間中に変更したことにより、観戦する機会創出の増加にもつながり、来場者数は令和5年度実績や目標を上回ることができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 一流アスリートの競技を身近に観戦する機会創出による、区民の心身の健康と生活の質の向上及び、「観る」スポーツの楽しさに触れてもらうことを目的としている。また、区民が楽しさを実感することで、運動・スポーツを始め、及び継続するきっかけとする。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 トップアスリートの競技を身近で観戦できる機会であり、子どもと働き世代のその保護者が一緒に、体を動かすきっかけとなることから今後も事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 区内の全小学校、保育園、幼稚園へのチラシ配布及びポスター掲示、あだち広報、区ホームページ、SNSでの周知した。	850人	・関東、東京都の二つのリーグと協力し2日間にわたってフットサル体験会を実施する。対象とする年齢層の幅を広げ、定員を増加することで、より多くの人の運動・スポーツをする機会の創出を図る。 ・チラシを作成し、区内の小学校、保育園、幼稚園に周知する他、ホームページやSNSなどで周知する。 ・体験会の内容を充実させる他、観戦において実況をつけることで、より盛り上がるような工夫を図る。	850人	スポーツ振興課
		3	継続	足立区小学生なわとびチャレンジ	実施校の割合	参加校数÷区立小学校（令和3年度：69校、令和4年度：68校、令和5年度：67校）	95.6%	73.9%	91.1%	92.5%	96.8%	92.5%	A	【総括】 全校による実施とはならなかったが、9割以上の学校がなわとびチャレンジに取り組んでいる。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内小学生が運動に親しみ、運動機会を確保することを目的として実施している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 児童の健康の保持増進と体力向上に向けて今後も継続して事業を行う必要がある。 手軽に楽しめる運動であるという特徴を生かし、次年度以降も各校で体育科授業や休み時間等に体を動かすことの楽しさを感じる取組として事業を推進していく。 【事業の周知】 各小学校には、区の通知文にて周知した。学校は家庭にお知らせを配布し取組を周知した。	96.8%	・区内小学生が運動に親しみ、運動機会を確保し、健康の保持増進を図ることを目的として実施する。また、その結果として、区内小学生の体力向上を目指す。 ・区内の共通ルールや取組カードを学校に周知し、一定の条件をクリアした児童や学校を表彰する。児童が自ら目標設定をしたり、学級単位で目標を設定して取り組んだりしながら、達成感を得ながら運動することや体力向上への意欲喚起を図る。	100%	教育指導課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	施設指定管理者によるプログラム（子ども向け）	事業実施回数	スポーツ振興課所管5施設（総合スポーツセンター、平野運動場、スイムスポーツセンター、千住温水プール、東綾瀬公園温水プール）で実施している「乳幼児」「児童・生徒」向けプログラムの年間の総実施回数	2,305回	745回	1,114回	1,187回	1,500回	877回	C	【総括】 東綾瀬公園温水プールの改修工事に伴う休館等により、当初予定よりも実施回数が減少した。 施設によって回数が少ない所もあり、幅広い世代に向けた講座実施を指定管理者と協力して実施していく課題が残った。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内5施設でスポーツプログラムを実施することで、身近な場所で気軽にできる運動の推進に貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区内5施設でスポーツプログラムを実施することは、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに必要。 【事業の周知】 あだち広報、指定管理者ホームページ等で周知した。	1,045回	2,600回	スポーツ振興課	
			拡充	施設指定管理者によるプログラム（成人向け）	事業実施回数	スポーツ振興課所管5施設（総合スポーツセンター、平野運動場、スイムスポーツセンター、千住温水プール、東綾瀬公園温水プール）で実施している「若者」「壮年者」向けプログラムの年間の総実施回数	4,027回	1,497回	2137回	1,922回	3,000回	2,162回	B	【総括】 東綾瀬公園温水プールの改修工事に伴う休館等により、当初予定よりも実施回数が減少し、前年度より少し増えた程度に留まった。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内5施設でスポーツプログラムを実施することで、身近な場所で気軽にできる運動の推進に貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区内5施設でスポーツプログラムを実施することは、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに必要。 【事業の周知】 あだち広報、指定管理者ホームページ等で周知した。	2,225回	4,500回	スポーツ振興課	
			継続	施設指定管理者によるプログラム（高齢者向け）	事業実施回数	スポーツ振興課所管5施設（総合スポーツセンター、平野運動場、スイムスポーツセンター、千住温水プール、東綾瀬公園温水プール）で実施している「高齢者」向けプログラムの年間の総実施回数	806回	248回	634回	389回	500回	1,524回	A	【総括】 東綾瀬公園温水プールの改修工事に伴う休館等により、当初予定よりも実施回数が減少したが、目標数を大きく上回る実施回数となった。他方1講座あたりの利用者数が子ども向け、成人向けと比べて少ない課題が有。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内5施設で高齢者向けプログラムを実施することで、身近な場所で気軽にできる運動の推進に貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区内5施設で高齢者向けプログラムを実施することは、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりや介護予防に必要。 【事業の周知】 あだち広報、指定管理者ホームページ等で周知した。	1,576回	900回	スポーツ振興課	
			継続	施設指定管理者によるプログラム（親子向け）	事業実施回数	スポーツ振興課所管5施設（総合スポーツセンター、平野運動場、スイムスポーツセンター、千住温水プール、東綾瀬公園温水プール）で実施している「親子」向けプログラムの年間の総実施回数	750回	126回	202回	185回	500回	174回	D	【総括】 東綾瀬公園温水プールの改修工事に伴う休館等により、当初予定よりも実施回数が減少した。実施回数が少なく、1講座あたりの利用者数も少ない課題が有 【事業の目的（施策への貢献）】 区内5施設で親子向けプログラムを実施することで、身近な場所で気軽にできる運動の推進に貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区内5施設で親子向けプログラムを実施することは、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりや地域コミュニティ育成に必要。 【事業の周知】 あだち広報、指定管理者ホームページ等で周知した。	218回	840回	スポーツ振興課	

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
			継続	施設指定管理者によるプログラム（障がい者向け）	事業実施回数	スポーツ振興課所管5施設（総合スポーツセンター、平野運動場、スィムスポーツセンター、千住温水プール、東綾瀬公園温水プール）で実施している「障がい者」向けプログラムの年間の総実施回数	71回	39回	59回	111回	70回	63回	A	【総括】 東綾瀬公園温水プールの改修工事に伴う休館等により、当初予定よりも実施回数が減少したが、概ね事業の開催ができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内5施設で障がい者向けプログラムを実施することで、身近な場所で気軽にできる運動の推進に貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区内5施設で障がい者向けプログラムを実施することは、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりや共生社会の実現に必要。 【事業の周知】 あだち広報、指定管理者ホームページ等で周知した。	71回	・利用者のニーズに合わせて、適切な時間・回数を実施していく。	150回	スポーツ振興課
		5	拡充	パークで筋トレ	事業実施回数 事業参加者数	①1年間の事業実施回数 《【】内は新規参加者数》 ※①内は新規参加者数 ②「区」実施分+「地域クラブ」実施分+「民間」実施分 ※行政評価指標（重プロNo.29 介護予防事業）	683回 【15,906人】	761回 【26,670人（1,638人）】	796回 【26,574人（843人）】	799回 【23,915（788人）】	819回 【27,846人（480人）】	855回 【25,605人（785人）】	A	【総括】 屋外での実施のため、天候に左右されやすい事業ではあるが、新規会場の増設により、令和5年度の実施回数や目標回数を上回ることとなった。新規会場の増設や、新規参加者獲得と継続参加につながるキャンペーンを実施したことにより、昨年度より参加者数を上回ることができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 身近な公園や広場を利用して、継続的に講師による指導のもと気軽に健康体力づくりを行うことで、要介護認定を受けない健康な高齢者を増やし、介護予防と地域の絆づくりを促進させることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 身近な公園で事前申込不要のため気軽に参加を促せる事業ということで、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、区HP、開催公園での看板設置に加え、「介護保険通知」にチラシを同封してもらい、地域包括支援センターの自宅訪問時のチラシ配布、センターだより等でも周知した。	828回 【28,152人（480人）】	・他の関係部署と連携し、新規参加者の獲得と継続参加の促進につなげる。 ・介護保険通知にチラシを同封し、事業の周知を図る。 ・各地域包括支援センターに管内の会場のチラシの配布やPRなどの協力を求める。 ・「パークで筋トレ」指導員に対し、必須研修や自己啓発研修などを実施することにより、指導員のスキルアップを図る。	828回 【28,566人（480人）】	スポーツ振興課
		6	拡充	ウォーキング教室	事業実施回数 事業参加者数	①1年間の事業実施回数 《【】内は参加者数》 ※①内は新規参加者数 ②「区」実施分+「地域クラブ」実施分+「民間」実施分 ※行政評価指標（重プロNo.29 介護予防事業）	38回 【737人】	30回 【475人（86人）】	39回 【490人（85人）】	42回 【561人（114人）】	39回 【720人（170人）】	37回 【548人（121人）】	A	【総括】 年間を通じて参加しやすい中距離のコースを多く設定し、初心者向けのウォーキング教室をノルディックウォーキングとした結果、令和5年度とほぼ同程度の実績となったが、目標は達成できなかった。 【事業の目的（施策への貢献）】 高齢者の健康に対する意識の向上、個人でできる健康増進につながる取り組み方法の習得、運動の習慣化を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 気軽に取り組めるだけでなく、体力づくりや初心者向けの教室の充実、運動・スポーツを楽しむきっかけづくりに寄与できるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、区HP、区事業時にPRをした。	39回 【720人（170人）】	・内容の充実と付加価値を提供することで、新規参加者増加を図る。 ・令和4年度新規に開設したノルディックウォーキング教室を引き続き行い、事業参加者の拡大を図る。	45回 【770人（132人）】	スポーツ振興課
		7	新規	障がい者スポーツ活動助成金	助成金の交付者数	1年間に助成金を交付した人数（令和5年度開始）	新規	-	-	235人	300人	281人	A	【総括】 目標には至らなかったものの、前年度以上に周知先を広げた結果、前年度以上の申請・交付決定件数とすることができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 障がい者の運動・スポーツ取り組み時の負担を軽減することで機会の拡大・スポーツ活動の継続を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 スポーツをしたくても、経済的な理由でスポーツ活動ができない障がい者がいるため、今後も事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 区内の障がい者通所施設のほか、区内の居宅介護時証書や区外特別支援学校への周知を実施した。	300人	・オンライン申請を導入し、手続きの利便性向上を図る。 ・令和8年度以降の制度継続について、助成金による効果検証を行い、継続可否を検討する。	300人 ※R7終了予定	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		8	新規	ウォーキングチャレンジ・イベント	事業参加者数	ウォーキング教室、ウォーキングチャレンジ、リバーサイドウォーキングの合計参加者数	1,103人	1,568人	1,182人	2,020人	2,620人	2,012人	B	【総括】 ウォーキング事業全体として参加者が横ばいとなっている。一定数への定着はしていると思われるが、新規参加者数を増やしていくことが今後必要と考える。6年度も目標を達成することはできなかった。 【事業の目的（施策への貢献）】 区民の健康に対する意識の向上、健康増進につながる取り組み方法の習得、運動の習慣化を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 気軽に始めるだけでなく、運動・スポーツを楽しむきっかけづくりに寄与できるため、今後も継続して事業を行っていく必要がある。 【事業の周知】 事業ごとにSNSや広報を利用し周知した。	2,620人		2,770人	スポーツ振興課 スポーツ協会
		9	拡充	文化・読書・スポーツ活動協創推進事業「ちよいスポ」「ちよいカル」「●●読み」	事業実施回数 事業参加者数	・読書・スポーツ分野と連携した、協創推進事業の年間の総実施回数、参加者数、実施センター数 ・R1新規事業 ・当面の目標として、複合施設のある地域学習センター全館での実施を目指す。	新規	752回 【5,954人】 15センター	1,130回 【12,236人】 15センター	1,016回 【9,781人】 15センター	1,055回 【10,269人】 15センター	1,044回 【11,773人】 15センター	A	【総括】 20～40歳代の子育て世代の父親、母親を主な対象として、全15施設で実施した。 実施回数では目標値をやや下回ったが、参加者数では目標値を上回る結果となり、R8目標値からはまだ乖離もあるものの、各分野に親しむ人の増には一定程度寄与できたと考える。 【事業の目的（施策への貢献）】 文化・読書・スポーツ分野計画に基づき、従来型の分野別のアプローチだけでなく、「読書×スポーツ」「読書×文化」「スポーツ×文化」など、それぞれの施設利用者が異なる分野へと関心・行動を広げる働きかけに取り組んでいくことで、共通理念である「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」の実現を目指す。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 「読書をしている層は、文化やスポーツに関しても一定の興味・関心があり、きっかけがあれば文化・スポーツ分野の行動に移る可能性がある」というアンケート分析結果に基づき、図書館や地域学習センターなどの身近な施設で気軽に親しめる事業であり、引き続き、必要である。 【事業の周知】 あだち広報、ホームページ、チラシ、豆の木メール、SNS（LINE、X（旧Twitter）、Facebookなど）、ミニコミ紙などにより周知している。	1,096回 【12,362人】 15センター	1 本事業の安定した継続実施に努めるとともに、多種多様な体験機会の提供に取り組んでことで、区民の関心・行動の拡大、向上を目指す。 2 定期的な連絡会の開催により、意見交換、情報共有の機会を確保するなど、指定管理者と密に連携を取りながら、事業に取り組んでいく。 また、参加者アンケートの分析結果なども踏まえ、直接的（声かけ）、間接的（SNS）な情報発信やプログラムの実施方法などを工夫、改善し、各分野に親しむ人の更なる増を目指す。	3,360回 【33,600人】 15センター	地域文化課 生涯学習支援課 スポーツ振興課 中央図書館
		10	新規	障がい者向けスポーツ相談窓口「あだちスポーツコンシェルジュ」の設置	障がい者が運動・スポーツに気軽に参加できる事業数	障がい者が気軽に参加できる運動・スポーツプログラムの提供数、参加者数	新規	12事業	19事業	20事業	28事業	21事業	B	【総括】 障がい者が気軽に参加できる事業について、令和6年度はスポーツコンシェルジュの紹介により、ソフトテニスのスポーツ広場の体験につなげ、1事業増となった。 【事業の目的（施策への貢献）】 障がい等により運動・スポーツ活動に支援を要する区民が、気軽に運動・スポーツを楽しめることを目的として、専門の窓口を設置している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 相談者の中には、これまで個人的に運動・スポーツができる場を探していたが、情報を入手できなかったり、利用を断られてしまっていたこともあり、諦めかけていたとの声がかれた。こうした方々を運動・スポーツへとつなげていくため、今後も相談を継続して行っていく必要がある。 【事業の周知】 制度について、障がい者福祉サービス事業所等の訪問係者会議を通じて周知したほか、障がい者スポーツ活動助成金のチラシに相談事業についても掲載し、情報発信した。	28事業	・情報収集や、地域のスポーツ施設やスポーツ団体への働きかけにより、障がいのある方が気軽に参加できる運動・スポーツの紹介先の充実化、相談後の活動への定着化を図る。 ・SNSを活用し、相談事例の紹介を行うなど、発信力を高め、利用促進を図る。	40事業	障がい福祉課 スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		11	新規	区民観戦デー	事業参加者数	観戦参加者数（年2回〈WEリーグ、Jリーグ〉） 〈R4年度開始〉 プロ野球観戦（年3回〈ジャイアンツ、ヤクルト〉） バレーボール観戦（年2回〈ヴェルディクラブ〉） 〈R6年度開始〉	新規	-	763人	1,152人	1,000人	1,480人	A	【総括】 令和4年度より東京ヴェルディとの連携協定を基に、区民招待・優待価格の観戦事業を行った。また、令和6年度より新しく部内を拠点とするプロ野球チーム2球団と連携協定を締結し、新規で子ども招待・優待価格の観戦事業を開始した。 【事業の目的（施策への貢献）】 一流アスリートの試合を身近に観戦する機会創出により、区民の心身の健康と生活の質の向上及び、「観る」スポーツの楽しさに触れてもらうことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 トップアスリートの競技を身近に観戦できる機会であり、区民がスポーツの楽しさを実感するきっかけづくりになることから今後も事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、SNSにて事業周知した。	1,500人	・JリーグとWEリーグ各1回、プロ野球3回、Vリーグ2回の合計7回事業を行う。連携先と協議し、回数や参加人数増を図る。 ・連携協定先と連携し情報発信に努め、さらなる観戦者増加を図る。	1,200人	スポーツ振興課
		12	継続	バラスポーツ体験会～知って、エンジョイ！バラスポデー！～ (旧 障がい者スポーツフェスティバル in あだち)	事業実施回数 事業参加者数	1年間の事業実施回数 《【】は参加者数》	337人	0人	126人	148人	376人	83人	D	【総括】 多様な体験プログラムを用意したものの、悪天候も影響し目標を下回る数値となってしまった。一方で、平均のひとり当たりの体験場所数は5ブース超となり、アンケート回答者全員から満足しているという回答を得られた。 【事業の目的（施策への貢献）】 健常者・障がい者が一緒にスポーツを楽しめる機会を提供することにより、障がい者スポーツの更なる普及と、スポーツを通じた共生社会構築を推進することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 運動・スポーツ実施率が低い傾向にある障がい者に対してきっかけづくりを与えることができることに加え、共生社会の実現に寄与することから、他のパラ体験事業との統合も含めた検討をすすめ、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 区HP、広報、福祉施設へのチラシ配布等により周知した。	380人	・他のパラ体験事業とのすみわけを含め事業内容を精査する。	400人	スポーツ振興課
		13	継続	小中学校における冬季の体力向上に向けた取り組み（持久走）	区内小中学校の授業内・外の事業参加率 区内小中学校の授業外の事業取組時間	授業内（A）と授業外（B）の取り組みの2形式 【A】 ①小：体づくりの運動遊び、体づくり運動 中：陸上競技（長距離走） ②実施校数／区立小・中学校（R3：小学校69校、中学校35校、R4：小学校68校、中学校35校） 【B】 ①始業前、中休み等、授業外の体育的活動 ②実施校数／区立小学校（R3：69校、R4：68校） 《【】は取組時間〈取組時間×取組日数〉》	A：100% B：92.7% 【397時間】	A:80.8% B:35.6% 【324時間】	A:100% B:89.9% 【357時間】	A:100% B:89.6% 【313時間】	A:100% B：92.7% 【397時間】	A:100% B:83.5	B	【総括】 授業内においては、区内小中学校の全ての学校が授業内で持久走及び長距離走に取り組んだ。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内小学生が運動に親しむことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 冬季の運動習慣の形成及び体力向上のため、児童生徒が持久走に取り組む時間を確保する必要があり、今後も継続して実施する必要がある。 【事業の周知】 各小学校には、区の通知文発出により周知した。学校は家庭にお知らせを配布し取組を周知した。	A:100% B:92.7%	・授業内外で定期的に取組を設定することで、児童・生徒が運動に親しむことを目的として実施する。 ・取組の時間は各校で検討し、授業内だけでなく、始業前や中休み等の授業外での時間を活用して取り組む。 ・持久走、長距離走を実施する際には、児童・生徒の熱中症等の健康面や安全面に十分留意する。 ・授業外に取組を実施することで、児童生徒が運動する習慣を身に付け、自ら目標を立てて取り組むことができるようにする。 ・学習カードやICTを活用し、個々の取組状況を可視化し、達成感を得るとともに、経年の取組状況を児童生徒が確認できるようにする。	A：100% B：92.7% 【397時間】	教育指導課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		14	継続	あだち放課後子ども教室体験プログラム「放課後+0ne」	運動プログラム実施校	「放課後子ども教室」における運動プログラム（投げる遊び、フラッグ鬼ごっこ、スポーツスタッキング、変則ドッジボール等）の実施校数	30校	7校	36校	67校	67校	67校	A	【総括】 運動プログラムについては、安全管理員（スタッフ）のもとで児童が自主的に楽しめるような運動遊びや遊具の紹介、他校の遊び方の情報提供を行い、指導者が不在でも実施可能な種目の導入に努め、目標に達することができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 放課後子ども教室にて、地域人材等の協力を得て行うスポーツ体験や運動遊びをすることで、運動の得手不得手に関わらず、全ての児童が楽しく体を動かすことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 校庭や体育館でのスポーツや運動遊びは、児童の運動能力や体力の向上に寄与するため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 実行委員会に対して、運動遊びを紹介する際、遊び方の手順書を添付し、スムーズに導入できるよう働きかけを行った。	67校	・放課後の時間帯に、地域人材による安全管理員（スタッフ）の見守りのもと、参加児童が自主的に運動・スポーツを楽しめる場として、引き続き実施する。	(全校) 67校 統合 R4 1校 R5 1校	生涯学習振興公社
		15	継続	ジュニア育成（ジュニアスポーツ大会、ジュニア育成地域推進事業）	事業参加者数	ジュニアスポーツ大会15種目の参加者数	7,223人	2,338人	3,797人	4,177人	7,800人	5,354人	B	【総括】 熱中症警戒アラートの発令を受けて大会を中止・縮小するなど健康面に配慮しながら大会運営を行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域におけるジュニアスポーツのすそ野を広げ、地域社会の担い手を育成している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 日頃の練習成果を発揮する場としている。 【事業の周知】 公社ニューストキメキおよびスポーツ協会ホームページへ募集記事を掲載した。	7,800人	・大会運営費用の補助交付や大会開催のPRを行い、ジュニアスポーツ振興のバックアップを行う。	8,000人	スポーツ協会
		16	継続	あだちスポーツチャレンジ	事業参加者数	区内5スポーツ施設で実施するオリパラ機運醸成イベントの参加者の総数 ※R2年度以降は5施設で実施 ※R3年度以降、トップアスリートとの交流事業として実施継続	1,037人	0人	243人	303人	300人	213人	B	【総括】 全施設（5か所）で開催することができた。申込多数で抽選となる講座があった一方で定員割れとなった講座もあった。参加者からは、技術的なアドバイスが参考になった等好評であった。 【事業の目的（施策への貢献）】 スポーツ振興や地域の活性化につながる事業を実施し、子ども達に夢を与えること、障がい者スポーツの理解、スポーツ振興などのレガシーにつなげることで、障がい者等の新規利用者が増加し、身近な場所で気軽にできる運動の推進に貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区内5施設でイベントを実施することは、運動・スポーツをより身近に感じることができる環境づくりに必要。 【事業の周知】 ミニコミ紙及び区ホームページにて周知した。	270人	・令和7年度は5施設でトップアスリートとの交流事業として実施予定。	500人	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		17	継続	はじめてのフレイル予防教室	事業実施回数 事業参加者数	1年間の総実施回数 《 》は参加者数(実数) ※R2年度から50回に拡大予定 ※行政評価指標(重プロNo.29 介護予防事業)	33回 【445人】	71回 【632人】	61回 【702人】	60回 【648人】	60回 【700人】	60回 【621人】	A	【総括】 例年同様目標の9割弱の参加者数であったが、前年実績値を下回る結果となった。毎年対象者が変わり、3年で一巡するため、参加経験者は増えている。未経験者の発掘や、3年後の体力低下があった高齢者への支援が必要である。 【事業の目的(施策への貢献)】 「介護予防チェックリスト」の結果で、何らかの生活支援が必要と判定された高齢者を対象とした介護予防(フレイル予防)教室、フレイル予防に必要な、体力向上・栄養改善・社会参加への意識を高めることを目的としている。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 自分で健康維持の活動ができていない高齢者に対しては、行政からのアプローチができる機会としては重要である。今後も高齢者の健康意識を高めるきっかけづくりとして事業を継続していく必要がある。 【事業の周知】 介護予防チェックリストの結果、支援が必要と判定された方に対して、アドバイス票及びフレイル予防教室の案内を送付。また、地域包括支援センターによる教室案内や実態把握訪問で周知した。	60回 【700人】	・参加者が、教室終了後も介護予防が継続できるよう、地域包括支援センターと連携しながら、地域の住民主体の活動を紹介していく。 ・自宅でも取り組める「あだち脳活ラボ」を紹介し、介護予防・認知症予防の取組が途切れないよう支援していく。 ・猛暑による参加者への影響を軽減するため、8月の開催を控えるよう変更する。 ・短期集中的に教室を実施していくため、全12回から全10回に変更する。	60回 【700人】	高齢者地域包括ケア推進課
		18	継続	はつらつ教室(プール)	事業参加者数	3か所で開催(定員:20人、1クール8回、年間3クール)《 》()内は新規参加者数	1,198人	63人	94人	67人	130人	94人	B	【総括】 令和6年度はプール施設の改修がなく、全3会場で実施できたが、目標値には達しなかった。 【事業の目的(施策への貢献)】 水中ウォーキングを中心としたトレーニングで高齢者の下肢筋力の維持・向上を目的としている。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 広報で周知が始まると電話での問い合わせが増加するため、参加者ニーズはあるが、リピートの参加もあるため、参加者拡大に課題がある。 【事業の周知】 広報、区ホームページ、委託事業者である区プール施設により周知した。	130人	・新規参加者の拡大や現在の定員のあり方等、費用対効果をふまえ、委託事業者と協議していく。 ・区内高齢者のプール利用について、幅広い利用につなげていけるよう事業のあり方含めて委託事業者と協議していく。	130人	高齢者地域包括ケア推進課
		19	継続	はつらつ教室(室内型)	事業参加者数	・《 》()内は新規参加者数 ・1クール4回で、原則終了後は自主グループ化プログラムに参加を促す	7,219人	566人	623人	661人	700人	646人	A	【総括】 一部会場では、近隣会場の改修により参加者が集中していたが、他の会場では参加者固定化が見られる会場もあった。会場数の限界と新たな参加者獲得への工夫が必要である。 【事業の目的(施策への貢献)】 身近な地域学習センターで、介護予防に必要な運動や栄養・口腔に関する知識・方法を学び、教室終了後は自宅でも取り組める動機付けとなることを目的としている。 【事業の必要性(ニーズの把握)】 参加者の固定化が見られる会場が多く、新規参加者の拡大が必要。本事業で学んだことを活かし、他事業への参加等、自分での活動継続を支援していくため、事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 広報、区ホームページ、地域学習センターによる周知や、地域包括支援センター連携により周知した。	700人	・本事業は運動を実施する通いの場としていくのではなく、学んだことを自分の生活でも取り組めるような、自宅に持ち帰れる内容を取り入れていく。 ・電話予約の混雑解消、申込のため会場に並ぶ負担を軽減するため、また、リピーター参加者の中でもキャンセル待ちによる参加率の不公平をなくするため、申込方法を抽選式に変更していく。 ・開催回数を参加実績に合わせて、回数の見直しを行う。	800人	高齢者地域包括ケア推進課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		20	継続	ふれあい遊湯（軽運動・体操）	事業実施回数 事業参加者数	1年間の事業実施回数 《【 】は参加者数》	448回 【5,393人】	222回 【1,279人】	366回 【2,228人】	286回 【2389人】	288回 【2,300人】	288回 【2,819人】	A	【総括】 入札により、新たな事業者による実施に変更。従来の脳トレや体操に加え、ゲーム性のある取組を実施した。新規参加者の申し込み状況把握の方法を見直した。 【事業の目的（施策への貢献）】 高齢者の居場所を確保することで、社会参加と運動ができる機会を創出することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 リピーターの参加が多くニーズはあるが、新規参加者の拡大が課題である。銭湯という高齢者が出向きやすい場所で開催運動体験を展開できるため、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 広報、区ホームページ、地域包括支援センターの連携により周知した。	288回 【2,300人】	・入札により、以前の委託事業者に再度変更となった。業者変更による、参加者への影響がないよう、受付体制及び実施内容等についても、事業者、浴場組合との調整を密にしていく。 ・銭湯を高齢者の社会参加につながる「通いの場」としての利用促進していくため、あだち脳活ラボを活用した、啓発活動を委託事業者及び浴場組合と協議していく。	288回 【2,300人】	高齢者地域包括ケア推進課
		21	新規	みんなで元気アップ教室（自主グループ化を目指した教室）	事業実施クール数 事業参加者数	1年間の事業実施クール数 《【 】は事業参加者数（実数）》	新規	95クール 【845人】	56クール 【647人】	56クール 【604人】	56クール 【700人】	57クール 【475人】	B	【総括】 コロナ禍で始まった事業のため、自主グループ化後の活動を屋外で会場確保がいらないウォーキンググループの立ち上げを目標に実施してきた。ウォーキングに対するニーズの低下があり、自主化の内容検討の必要がある。 【事業の目的（施策への貢献）】 教室への参加を通じ、参加者同士で交流を含め、教室終了後は地域で自主的に介護予防に取り組める、自主グループを立ち上げることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 教室参加以外も含め、高齢者による自主グループが248グループたちあがった。高齢者の健康意識や居場所の確保に貢献しているため、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 広報、区ホームページ、地域包括支援センターとの連携により周知した。令和6年8月から、自主グループを含む「通いの場一覧」を区ホームページに掲載している。	58クール 【700人】	・今後は、自主グループ立ち上げだけではなく、グループ活動継続の支援のあり方について、連携している地域包括支援センターや委託事業者と連携しながら事業を実施していく。 ・自主グループを含む通いの場の一覧について、反響があったが、連携している地域包括支援センターへ状況確認し、必要があれば周知方法の改善を図っていく。	56クール 【700人】	高齢者地域包括ケア推進課
		22	新規	高齢者体力測定会	事業実施回数 事業参加者数	1年間の事業実施回数 《【 】は参加者数（実数）》	新規	61回 【425人】	116回 【485人】	80回 【586人】 ※R4まで1回2コマの数で計上していたが、R5より開催数としてまとめて計上する	56回 【1,200人】	45回 （固定会場36回、出張型9回） 【固定開催232人、出張型260人、計492人】	B	【総括】 実施方法の見直しにより、比較的参加者の多い場所に固定開催を月3か所と集中させたが、近隣参加者の偏りや申込制の手間等あり実績が上がらなかった。その反面、出張型開催として、シルバー人材センターの会議と連携して開催したところ、参加者の半数以上が初めての参加となり、新規参加者拡大に貢献できた。 【事業の目的（施策への貢献）】 高齢者が今の自分の健康状態を正しく知ること健康意識を高めることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 専門家のアドバイスにより正しく健康状態を把握することで、予防・回復に向けた意識改革につながるため、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 広報、区ホームページ、地域包括支援センターとの連携により周知した。出張型については、シルバー人材センター内の配布物と周知連携した。	—	・本測定会事業については、令和7年度より認知機能の測定と足踏の測定を一体的に行う「はつらつ測定会」に見直し実施していく。 ・より一層参加しやすい測定会にすべく、申込不要にし、定着させていくため、全地域学習センターで毎月固定曜日での開催としていく。 ・あだち脳活ラボと連携し、I D登録者には測定結果がスマホに送られ、参加ポイントが溜まってい仕組みにて実施していく。	60回 【1,260人】	高齢者地域包括ケア推進課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		23	継続	リバーサイドウォーキング	事業参加者数	イベントの参加者数（年1回開催） ※東京都体育協会の補助事業	366人	0人	0人	169人	470人	270人	C	【総括】 周回コースとなり2回目だが発着の会場を千住地域とし、トラブル等なく参加者にウォーキングを楽しんでもらうことができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 ウォーキング初心者から愛好者までを対象とし、楽しさの提供と体力の増進を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 音読運動をしていない方が参加者の約3割を占め、運動をするきっかけづくりとなるため、今後も継続する必要がある。 【事業の周知】 報道広報誌の情報スタンドを活用、公社ニューストキメキ2月号の1面で周知した。	400人	・令和8年3月に荒川河川敷での開催を検討する。 ・参加者がより楽しむことができるよう最適なコースを選定する。	500人	スポーツ協会
		24	新規	障がい者施設への運動・スポーツのアウトリーチ事業	事業実施回数 事業参加者数	1年間に行った障がい者施設へのアウトリーチ事業の実施回数 《【】は参加者数》 ※目標値達成上方修正	新規	6回 【72人】	5回 【130人】	8回 【221人】	10回 【200人】	9回 【262人】	A	【総括】 あだちスポーツコンシェルジュへの相談から、障がい者の通所施設・障がい者団体への出前体験会を実施した。実施回数は目標値を下回ったものの、参加者数は目標値を上回った。実施にあたっては、障がい者スポーツ指導員の協力を得るなど、ささえる人材との連携も意識して実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 運動・スポーツに触れる機会の少ない障がい者施設の通所者に、運動・スポーツへの関心や意欲をもっていただくことを目的に実施した。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 活動の場への移動という問題から、運動・スポーツに取り組めていない障がい者に対し、運動・スポーツを楽しんでいただくため、今後も実施していく必要がある。 【事業の周知】 体験会実施事例について、障がい者施設への周知を行った。	10回 【280人】	・今後もあだちスポーツコンシェルジュの周知活動とともに施設側のニーズを聞き取りながら、施設でも実施できる運動・スポーツについて、用具、指導者やスタッフなど、活動のために必要な調整を行い、成功事例を積み上げ、発信していく。	6回 【60人】	スポーツ振興課
		25	継続	総合型地域クラブにおけるプログラム	プログラム参加者数	区内9クラブの1年間の教室、イベント、委託事業の総参加者数 ※行政評価指標（4149地域団体活動支援事業）	47,575人	15,776人	36,276人	37,696人	42,500人	40,245人	A	【総括】 令和4年度から開始したバラスポーツ普及事業を開催するクラブ数も増加し、全体として参加者は増加したが、目標を達成することはできなかった。 【事業の目的（施策への貢献）】 年代や障がいの有無を問わず参加可能な多種多様なプログラムを実施することで、健康・体力増進に加え、地域コミュニティの活性化を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 全9クラブがそれぞれ地域に根差して各プログラムを展開しており、多世代に運動・スポーツを楽しむきっかけづくりを提供しているため、今後も事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 各クラブの広報誌、HPにて周知した。	42,500人	・新たなプログラムへの取り組みや、企画内容を工夫し参加者の拡充を図る。 ・各クラブからプログラムの参加状況等ヒアリングを行い、クラブに合わせた支援を行っていく。	51,000人	スポーツ振興課
		26	継続	住区センター（児童館）におけるプログラム	事業参加者数	児童館で実施している運動・スポーツのきっかけとなる事業（ベビータンズ、ベビ योग、ひろばあそび、ミニ運動会、一輪車、卓球、ドッジボール、集団遊び等）の総参加者数	149,964人	97,723人	67,935人	100,619人	120,000人	426,527人	A	【総括】 ドッジボールや卓球、縄跳び、集団遊びなどを、日常の遊びの中でおこなう児童館が増えた。乳幼児事業についても、事業回数が2倍となり、総参加者数の増加につながった。 【事業の目的（施策への貢献）】 子どもたちにとって身近にある児童館で、運動・スポーツを楽しむ機会を増やすことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもたちに身近な児童館での活動は、子ども同士の関わりや、運動やスポーツを気軽に楽しむきっかけづくりにつながる。 【事業の周知】 各児童館の毎月のお知らせ、ホームページや館内掲示等で周知した。	140,000人	・引き続きドッジボールや卓球、一輪車、縄跳びなど、日常の遊びの中で、子どもたちが楽しめるプログラムを継続していく。 ・各住区センターの実情に合わせて、卓球、ポッチャ、スポーツダーツなどのプログラムを推奨していく。 ・研修や実践交流会を通して、児童館同士の情報共有を行い、新事業へのきっかけにしていく。	150,000人	住区推進課

スポーツダーツは約半数の住区センターに設置

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		27	継続	住区センター（悠々館）におけるプログラム	事業参加者数	悠々館で実施している運動・スポーツのきっかけとなる事業（ラジオ体操、太極拳、気功、ストレッチ、ヨガ、筋トレ、吹き矢、バンパー、卓球、ダーツ、ダンス等）の総参加者数	23,819人	105,901人	183,148人	184,618人	190,000人	210,292人	A	【総括】 利用者の実情や要望に合わせた教室や体操、イベントを計画したことで実施回数が増えたことにより総参加者の増加につながった。 【事業の目的（施策への貢献）】 住区センターを利用する60歳以上の方の健康の維持、増進を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 身近な住区センターの活動は、誰にでも利用しやすい通いの場として、運動やスポーツを気軽に楽しめるきっかけづくりにつながる。 【事業の周知】 各住区センターの毎月のお知らせ、ホームページや館内掲示、近隣の町会の掲示版等で周知した。	220,000人	・栄養講座を取り入れたフレイル等の介護予防事業を促進していく。 ・定着しているラジオ体操の他に、盆踊りや転倒予防体操、バンパー、卓球、スポーツダーツやポッチャなど各住区センターの実情に合わせたプログラムを推奨し、利用者が楽しめる事業を行うことで利用者増が見込まれる。	240,000人	住区推進課
		28	拡充	クリスマスカップ（関東社会人・関東大学バスケットボールオールスターゲーム）	事業参加者数	体験会と観戦会の参加者（年1回開催）	648人	211人	269人	427人	759人	455人	C	【総括】 令和5年度に比べ、事前申込となる特別席の数を増加させたことにより、観戦者数が増加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 トップアスリートとの交流や体験を通じ、子どもにスポーツへの関心喚起を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもにとって有益な事業であり、大人にとってもハイレベルなスポーツ観戦の場の提供となることで、スポーツの楽しさを実感するきっかけとなる。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページ、チラシ、SNSで事業周知をした。	759人	・事前の情報発信をSNSなどを活用し、広く周知を行うことによりさらなる観戦者増加を図る。	778人	スポーツ振興課
		29	継続	スポーツ教室、スポーツ広場	事業参加者数	スポーツ教室及びスポーツ広場の総参加者数	32,076人	10,021人	26,150人	25,076人	32,800人	23,534人	B	【総括】 卓球連盟の主管団体の意向を尊重しながら、各種種目を広く実施した。武術太極拳がセンター事業に移行したため、参加者が減じた 【事業の目的（施策への貢献）】 区民が気軽に参加できるスポーツ教室・広場を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 実施種目は毎年変わらないため、参加者が固定化されているという現場の声もある。 【事業の周知】 あだち広報への掲載を行った。	32,800人	・区民が気軽に運動やスポーツに参加できる場として、引き続き事業を実施していく。	33,000人	スポーツ協会

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1 運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり	1-2 だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実	1	継続	スポーツカーニバル	事業参加者数	・区内14施設で行われる 体験会の総参加者数 ・年1回開催	6,821人	0人	0人	4,118人	7,900人	7,321人	A	【総括】 悪天候の影響もあり、目標としていた参加者数（7,700人）を下回ったが、多くの区民の方にスポーツを体験してもらうことができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 「きつと見つかるあなたのスポーツ」をテーマに、様々なスポーツの体験機会を提供することで、運動意欲の向上や地域スポーツの活性化を図る。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 令和5年度のスポーツカーニバルで実施したアンケートでは、イベントの参加を通じて運動をやりたいと思った方の割合が95%を超え、多くの区民の運動のきっかけとなっており、今後も継続して事業を実施する必要がある。 【事業の周知】 あだち広報およびチラシ・ポスターを作成して広く周知した。	7,900人	・より多くの区民がスポーツの楽しさを体験できるよう、関係者と連携して企画をしていく。	8,200人	スポーツ振興課 スポーツ協会
		2	継続	【再掲】バラスポーツ体験会～知って、エンジョイ！バラスポデー！～ （旧 障がい者スポーツフェスティバル in あだち） （1-1 No. 12）	事業実施回数 事業参加者数	1年間の事業実施回数 《【】は参加者数》	337人	0人	126人	148人	376人	83人	D	【総括】 多様な体験プログラムを用意したものの、悪天候も影響し目標を下回る数値となってしまった。一方で、平均のひとり当たりの体験場所数は5ブース超となり、アンケート回答者全員から満足しているという回答を得られた。 【事業の目的（施策への貢献）】 健康者・障がい者が一緒にスポーツを楽しめる機会を提供することにより、障がい者スポーツの更なる普及と、スポーツを通じた共生社会構築を推進することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 運動・スポーツ実施率が低い傾向にある障がい者に対してきつかけづくりを与えることに加え、共生社会の実現に寄与することから、他のパラ体験事業との統合も含めた検討をすすめ、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 区HP、広報、福祉施設へのチラシ配布等により周知した。	380人	・他のパラ体験事業とのすみわけを含め事業内容を精査する。	400人	スポーツ振興課
		3	新規	障がい者運動教室	事業参加者数	教室に参加した障がい児・者数	新規	-	-	784人	820人	982人	A	【総括】 個人単位で参加できる運動教室について、定員以上の申込みがあり、参加者が増加し、目的を達成した。 【事業の目的（施策への貢献）】 障がい者が継続して参加できる教室を定期的に関催し、障がいに応じた道具やルールを工夫して行うバラスポーツを体験できることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 バラスポーツを楽しむ機会の提供事業として必要な事業あり、新規参加申し込みも継続して受付していることから、事業を継続していく必要がある。 【事業の周知】 特別支援学校等へのチラシ配布をし周知した。	1,200人	・引き続き障がい者施設等を通じ障がい者への周知活動を継続していく。 ・教室の実施会場を総合スポーツセンター1会場（2教室）から江北地域学習センターを追加し、2会場（2教室）に拡大し実施する。	900人	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30策定時	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	R6達成度	R6取組状況	R7目標値	R7取組予定	R8目標値	所管課
		4	新規	スペシャルライフコートの活用	事業参加者数	1年の利用者数	新規	-	-	6,661人	5,500人	7,809人	A	【総括】 一般開放の時間帯（団体等による優先利用がない時間帯）の利用者が増加し、目標値を大きく上回った。 【事業の目的（施策への貢献）】 障がい者や子どもたちを中心に、コートを活用して誰もが運動・スポーツを楽しむことができるようになることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 障がい者へのスポーツ活動の場の提供、健常者へのバラスポーツの普及啓発のため、継続して利用を図っていく必要がある。 【事業の周知】 「スペシャルライフコートフェスティバル」の開催や、スポーツコンシェルジュによる障がい者施設へのアウトリーチ事業等を通じて周知した。	8,600人	5,500人	スポーツ振興課	
		5	新規	【再掲】区民観戦デー（1-1 No.11）	事業参加者数	観戦参加者数（年2回〈WEリーグ、Jリーグ〉）〈R4年度開始〉	新規	-	763人	1,152人	1,000人	1,480人	A	【総括】 令和4年度より東京ヴェルディとの連携協定を基に、区民招待・優待価格の観戦事業を行った。また、令和6年度より新しく都内を拠点とするプロ野球チーム2球団と連携協定を締結し、新規で子ども招待・優待価格の観戦事業を開始した。 【事業の目的（施策への貢献）】 一流アスリートの試合を身近に観戦する機会創出により、区民の心身の健康と生活の質の向上及び、「観る」スポーツの楽しさに触れてもらうことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 トップアスリートの競技を身近に観戦できる機会であり、区民がスポーツの楽しさを実感するきっかけづくりになることから今後も事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、SNSにて事業周知した。	1,500人	1,200人	スポーツ振興課	
		6	新規	プロスポーツチーム、民間事業者、大学等との連携	連携事業数	①運動・スポーツイベントで協力して実施した事業数（委託事業は含まない） ②運動・スポーツに関する専門的な見地からのアドバイスや研究協力を得て実施した事業数（委託事業は含まない）	新規	-	4回	4回	6回	8回	A	【総括】 令和5年度に引き続き、区民観戦デー、ウォーキングチャレンジで民間企業と連携し事業を実施した。また、新しくプロ野球の観戦デーやパリオリンピックパブリックビューイングでも事業を実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 より多くの区民が運動・スポーツに取り組めるように、民間事業者がもつ施設の利用や指導員からの指導を受けられる機会を増やす。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区が持つ施設や機会だけでなく、民間の施設を利用することで区民のスポーツに触れるきっかけづくりに寄与するため事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページにより周知した。	10回	10回	スポーツ振興課	

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		7	継続	【再掲】関東女子フットサルリーグ in 足立 (1-1 No.2)	事業参加者数	イベントの来場者数（年1回開催）※観戦会と、親子体験教室（定員：40組80名）を実施	711人	88人	121人	468人	300人	710人	A	【総括】 親子フットサル体験会の募集人数を増やしたことにより、令和5年度より多くの方に体験会に参加していただくことができた。また年齢層を広げたことは未就学児へのスポーツを始めるきっかけづくりに寄与した。実施日を夏休み期間中に変更したことにより、観戦する機会創出の増加にもつながり、来場者数は令和5年度実績や目標を上回ることができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 一流アスリートの競技を身近に観戦する機会創出による、区民の心身の健康と生活の質の向上及び、「観る」スポーツの楽しさに触れてもらうことを目的としている。また、区民が楽しさを実感することで、運動・スポーツを始め、及び継続するきっかけとする。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 トップアスリートの競技を身近で観戦できる機会であり、子どもと働き世代のその保護者が一緒に、体を動かすきっかけとなることから今後も事業を継続する必要がある。 【事業の周知】 区内の全小学校、保育園、幼稚園へのチラシ配布及びポスター掲示、あだち広報、区ホームページ、SNSでの周知	850人	・関東、東京都の二つのリーグと協力し2日間にわたってフットサル体験会を実施する。対象とする年齢層の幅を広げ、定員を増加することで、より多くの人の運動・スポーツをする機会の創出を図る。 ・チラシを作成し、区内の小学校、保育園、幼稚園に周知する他、ホームページやSNSなどで周知する。 ・体験会の内容を充実させる他、観戦において実況をつけることで、より盛り上がるような工夫を図る。	850人	スポーツ振興課
		8	継続	各種スポーツ大会の開催、選手派遣	事業参加者数	区大会、都大会予選、墨東五区大会の参加者数及びその他大会への選手等の派遣者数の合計	19,710人	4,268人	12,384人	13,671人	19,900人	16,584人	B	【総括】 コロナの5類移行後初めての各種大会の実施であったが、感染拡大防止のため必要なコロナ対策は継続して行いながら事業を実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 初心者から上級者まで、自分に合った競技レベルの大会参加機会を提供し、施策の「するスポーツ」に大きく貢献している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 日頃より運動、スポーツに親しんでいる区民の運動へのモチベーションの向上に必要と考えられる。 【事業の周知】 公社ニューストキメキおよびスポーツ協会ホームページへ募集記事を掲載した。	17,600人	・大会運営費用の補助交付や大会開催のPRを行い、バックアップを行う。	20,000人	スポーツ協会
		9	継続	スポーツ教室、スポーツ広場	事業参加者数	スポーツ教室及びスポーツ広場の総参加者数	32,076人	10,021人	26,150人	25,076人	32,800人	23,534人	B	【総括】 卓球連盟の主管団体の意向を尊重しながら、各種種目を広く実施した。武術太極拳がセンター事業に移行したため、参加者が減じた 【事業の目的（施策への貢献）】 区民が気軽に参加できるスポーツ教室・広場を提供する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 実施種目は毎年変わらないため、参加者が固定化されているという現場の声もある。 【事業の周知】 あだち広報への掲載を行った。	32,800人	・区民が気軽に運動やスポーツに参加できる場として、引き続き事業を実施していく。	33,000人	スポーツ協会
		10	継続	東京都車いすバスケットボール選手権大会	事業参加者数	・大会の中で行われる、車いすバスケットボールの体験会の参加者数 ・年1回開催 ・観戦会と体験会を実施	46人	0人	52人	123人	60人	75人	A	【総括】 令和6年度も前年度に引き続き、バラスポーツ体験会（No.2）の中で車いすバスケットボールの体験を実施したため、本事業においては観戦のみのイベントとして実施した。前年度より減少したものの、目標を上回りバラスポーツの普及に寄与した。 【事業の目的（施策への貢献）】 バラスポーツに触れる機会を提供することにより、バラスポーツの更なる普及と、スポーツを通じた共生社会構築を推進することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 普段目にする機会の少ないパラアスリートのプレーを間近で観戦でき、区民にバラスポーツの魅力を知ってもらう場になることから、継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 足立区HP、あだち広報、SNS	70人	・事前申込制、人数制限、時間入替制など主催者と調整していく。 ・HPやSNSを活用し、特別観覧席をさらにPRして参加者増を図る。	70人	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業 番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		11	拡充	【再掲】クリスマスカップ (関東社会人・関東大学バスケットボールオールスターゲーム) (1-1 No. 28)	事業参加者数	体験会と親職会の参加者 (年1回開催)	648人	211人	269人	427人	759人	455人	C	【総括】 令和5年度に比べ、事前申込となる特別席の数を増加させたことにより、観戦者数が増加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 トップアスリートとの交流や体験を通じ、子どもにスポーツへの関心喚起を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 子どもにとって有益な事業であり、大人にとってもハイレベルなスポーツ観戦の場の提供となることで、スポーツの楽しさを実感するきっかけとなる。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページ、チラシ、SNSで事業周知をした。	759人	・事前の情報発信をSNSなどを活用し、広く周知を行うことによりさらなる観戦者増加を図る。	778人	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
1 運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり	1-3 運動・スポーツに関する情報の効果的な発信	1	新規	【再掲】 障がい者向けスポーツ相談窓口「あだちスポーツコンシェルジュ」の設置（1-1 No.10）	障がい者が運動・スポーツに気軽に参加できる事業数	障がい者が気軽に参加できる運動・スポーツプログラムの提供数、参加者数	新規	12事業	19事業	20事業	28事業	21事業	B	【総括】 障がい者が気軽に参加できる事業について、令和6年度はスポーツコンシェルジュの紹介により、ソフトテニスのスポーツ広場の体験につなげ、1事業増となった。 【事業の目的（施策への貢献）】 障がい等により運動・スポーツ活動に支援を要する区民が、気軽に運動・スポーツを楽しめることを目的として、専門の窓口を設置している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 相談者の中には、これまで個人的に運動・スポーツができる場を探していたが、情報入手できなかったり、利用を断られてしまっていたこともあり、諦めかけていたとの声がかれた。こうした方々を運動・スポーツへとつなげていくため、今後も相談を継続して行っていく必要がある。 【事業の周知】 制度について、障がい者福祉サービス事業所等の訪問係者会議を通じて周知したほか、障がい者スポーツ活動助成金のチラシに相談事業についても掲載し、情報発信した。	28事業	・情報収集や、地域のスポーツ施設やスポーツ団体への働きかけにより、障がいのある方が気軽に参加できる運動・スポーツの紹介先の充実化、相談後の活動への定着化を図る。 ・SNSを活用し、相談事例の紹介を行うなど、発信力を高め、利用促進を図る。	40事業	障がい福祉課 スポーツ振興課
		2	拡充	運動・スポーツの情報発信強化	区の運動・スポーツ関連ホームページへのアクセス件数	区ホームページ（「スポーツ」「スポーツ施設」「健康づくり（の一部）」）への年間のアクセス件数	676,269件	812,958件	634,330件	709,327件	720,000件	694,699件	A	【総括】 アクセス数の大半を占めるスポーツ施設関連ページは大きな増減が見られなかった。 一方で、スポーツカーニバルなどのイベントはアクセス数が増加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 運動・スポーツに関心がない区民や、あっても行動にいたっていない区民への行動促進を目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 ホームページは各種事業を効果的に周知する手段であるため、必要性があるため継続して実施していく。 【事業の周知】 SNS投稿時にホームページのリンクを貼る、あだち広報やチラシでのQRコードを乗せる等して周知した。	720,000件	・SNSや広報ではアイキャッチで惹きつけ、HPに誘導し、より詳しい情報を提供する等、媒体を使い分け、効果的な情報発信に取り組んでいく。	780,000件	スポーツ振興課
		3	新規	他分野との連携事業	他分野連携事業の実施回数	庁内他所属、スポーツ関係団体以外の団体等との連携事業の年間の総実施回数	新規	3回	3回	3回	4回	2回	C	【総括】 障がい者スポーツ指導員養成講習会での福祉部、あだちウォーキングチャレンジでの衛生部協力は継続実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 これまで関連の薄かった他分野の推進主体と連携することで、より多くの区民に運動・スポーツの普及・啓発を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 運動・スポーツにあまり関心のない層に対し、運動・スポーツを入り口としないアプローチを行っていくため、今後も手法を検討しながら継続して行っていく必要がある。 【事業の周知】 あだちウォーキングチャレンジは、あだち広報、チラシ配布に加え、ホームページ・SNSに掲載。衛生部と協力し互いに協力団体・企業へチラシを配布し、職場での運動・スポーツ普及を促した。	4回	・令和6年度の取り組みを継続しつつ、他所属との情報連絡を密にし、連携できる事業を検討していく。	6回	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	継続	健康づくり・スポーツ活動支援講座	講座参加者数	・健康づくりやスポーツ科学の最新情報を学ぶ講座の参加者数 ・年2回開催（定員30人）	40人	63人	45人	61人	-	-	×	令和5年度もって事業終了	-	令和5年度もって事業終了	-	生涯学習振興公社

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30策定時	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	R6達成度	R6取組状況	R7目標値	R7取組予定	R8目標値	所管課
2 運動・スポーツの楽しみを深める場の提供	2-1 身近な場所における運動・スポーツの推進	1	拡充	【再掲】文化・読書・スポーツ活動協創推進事業（1-1 No.9）	事業実施回数 事業参加者数	・文化・読書分野と連携した、協創推進事業の年間の総実施回数 《【】は参加者数》 ・R1年度新規事業 ・当面の目標として、複合施設のある地域学習センター全館での実施を目指す	新規	752回 5,954人 15センター	1,130回 12,236人 15センター	1,016回 9,781人 15センター	1,055回 10,269人 15センター		B	【総括】 令和5年度は、20～40歳代の子育て世を主な対象として、全15施設で実施した。 実施においては、指定管理者と密に連携を取りながら、LINEによる定期的な情報配信や積極的な声かけなどにより、区民の関心、行動の維持向上に努めた。 中央本町地域学習センターの大規模改修などの影響により、実績値が目標値を下回ったものの、事後アンケートの結果では、本事業により、新たに3分野活動を始めた区民の割合は増加していることから、各分野に親しむ人の増には一定程度寄与してきたと考える。 【事業の目的（施策への貢献）】 文化・読書・スポーツ分野計画に基づき、従来型の分野別のアプローチだけでなく、「読書×スポーツ」「読書×文化」「スポーツ×文化」など、それぞれの施設利用者が異なる分野への関心・行動につながる働きかけを通じて、共通理念「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」の実現を目指す。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 「読書の行動層では、文化・スポーツへの関心層が約2割存在する」という科学的根拠に基づき、図書館や地域学習センター等の身近な施設で気軽に親しめる事業であり、引き続き必要である。 【事業の周知】 あだち広報、ホームページ、チラシ、豆の木メール、SNS（LINE、Twitter、Facebook）、ミニコミなどにより周知している。		・令和6年度は、引き続き、本事業の安定化、及び多種多様な体験機会の提供により、区民の関心、行動の維持、向上を目指す。		
		2	継続	学校施設の地域開放	登録団体数	小学校67校、中学校35校の全登録団体数 ※行政評価指標（4146学校施設の地域開放事業）	1,393団体	1,355団体	1,356団体	1,314団体	1,400団体	1,298団体	A	【総括】 年間を通して学校施設貸出を行い、継続的な団体活動を支援することが出来た。令和5年度と比較して登録数は微減であった。 【事業の目的（施策への貢献）】 区内小中学校全校（102校）において、年齢を問わず周辺の地域住民が身近に運動・スポーツを楽しむことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 登録団体数は減少したものの依然として利用率は高く、学校という区民にとって身近な場所での運動・スポーツを推進する事業であることから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 新規登録希望団体に向けて区HPで周知した。	1,400団体	・利用ルールの徹底、適切な利用、安全確保のための周知、課題の洗い出しを実施していく。		
		3	新規	自宅や職場でできる運動・スポーツの推進	啓発活動の実施回数	区が主催するスポーツイベントにて、啓発活動を行った回数	新規	2回	3回	3回	4回	3回	B	【総括】 令和4年度より実施した2事業（パークで筋トレ、初心者向けウォーキング教室（令和5年度は新規にノルディックウォーキングを実施））を引き続き実施し、自宅でのトレーニング等啓発活動を行った。 ウォーキングチャレンジでは事業協力をいただいている民間事業者より提供いただいたトレーニング方法を記載したチラシを、区ホームページ及びSNSで公開した。 【事業の目的（施策への貢献）】 自宅やその周辺で自主的に身体を動かせる方を普及啓発することで、運動・スポーツを始めることにハードルを感じている区民が取り組みきっかけとなることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 外出など自由に活動ができない区民や、運動・スポーツを始めたいと思っている区民にとって、身近なところで気軽に楽しめる方を紹介することは、運動・スポーツに取り組む区民の裾野を広げる重要役割を担うことから、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 自主的に身なところで運動・スポーツを実践できるよう、区HPにて作成した区内ウォーキングマップを公開した。高齢者向けの各種チラシ等にもQRコードを記載し、スポーツの啓発に努めた。	4回	・区民が単発のイベント参加にとどまらず、その後の自主的な運動・スポーツの継続につながるよう、気軽に取り組める運動の紹介を行う。		

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		4	新規	運動・スポーツのできる公園の整備	運動・スポーツのできる公園の活用	公園等の改修・整備設計・工事の着手件数	新規	31件	25件	33件	38件	33件	A	【総括】 公園が多い足立区の強みを活かし、一定のエリアごとに役割や機能を割り振り、個々の公園の性格や特色の違いを明確化した公園整備を行っている。 【事業の目的（施策への貢献）】 運動・スポーツのできる公園として、ウォーキングコースの改修、ボール遊びのできる設備、健康器具の設置などに取り組んでいる。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 公園はだれにとっても身近な施設であり、公園を利用した運動活動は気軽に継続しやすく、区民の健康づくりの場となるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 工事前の「工事のお知らせ」及び工事完了後のPRやアンケートなどを行っている。	34件	20件	パークイノベーション推進課	
		5	新規	運動・スポーツのできる公園の整備	啓発活動の実施回数	公園の魅力を伝えるSNS発信数	新規	12回	16回	21回	18回	22回	A	【総括】 公園の改修・整備に合わせてホームページ等で情報発信を行っている。 【事業の目的（施策への貢献）】 公園内の設備や健康遊具を活用する運動だけではなく、公園の魅力をホームページやSNSなどで発信することで、公園に出向く区民を増やし、公園までの道のりをウォーキングしてもらいなど、継続した運動にもつないでいく。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 公園の利用者増に結び付けていくために、区民が欲しいと思う情報の発信をしていくことが重要である。 【事業の周知】 公園整備完了後にホームページやSNSで公園の紹介を行っている。また指定管理施設で実施するイベント等の情報発信を行っている。	20回	・整備完了後の公園紹介が8回 ・指定管理施設で実施するイベント紹介が12回は発信予定である。 （公園維持課拠点公園係より発信）	15回	パークイノベーション推進課
		6	拡充	総合型地域クラブとの連携	委託事業実施回数	9クラブへの委託事業の総実施回数	548回	531回	732回	771回	800回	821回	A	【総括】 各地域クラブで企画した委託事業がおおむね予定どおり実施できたことで、前年度より実施回数が増加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 総合型地域クラブは区内9カ所の地域で自主的に運営される多世代・多種目型の団体である。各クラブが広く周辺住民を対象として事業を行うことで、運動・スポーツを通じた地域コミュニティの形成、高齢者の介護予防などに寄与することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 各クラブは地域に根差した活動を行っており、区民が身近に運動・スポーツを楽しめる場としてクラブを認知し利用していくことを促すことができるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 各クラブの広報紙、ホームページにより周知した。	800回	・身近に運動・スポーツを楽しめる場として、各クラブと協議しながら実施していく。 ・継続的にバラスポーツ普及事業を実施し、障がい者も地域で運動・スポーツに取り組める環境を整えていく。	600回	スポーツ振興課
		7	新規	民間施設の活用	提携事業数	民間事業数等（区施設以外）を活用し、区民の運動・スポーツの場や機会を創出した事業数	新規	-	-	3事業 2204名 【内訳】 Jリーグ 855名 WEリーグ 297名 民間プール開放 1052名	5事業 1,500名	4事業 912名 【内訳】 Jリーグ 279名 WEリーグ 270名 東京ドーム 89名 神宮野球場 274名	A	【総括】 令和6年度は、WEリーグ、Jリーグの観戦に加え、夏休み期間中にプロ野球試合観戦を行った。連携協定を締結したため、来年度以降も引き続き事業を実施していく。 【事業の目的（施策への貢献）】 民間のスポーツ施設を活用することにより、区民が多くスポーツに触れるきっかけづくりに寄与する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区民にとって運動・スポーツを行う場を提供する事業であることから、今後も継続して事業を行う。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページにより周知した。	5事業 1,500名	・みるスポーツとして試合観戦を民間施設にて行う予定である。 （サッカー） WEリーグ 味の素フィールド300名 Jリーグ 味の素スタジアム1,000名 （野球） 神宮球場 2回 600名 東京ドーム 1回 100名	5事業 1,200名	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

柱	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		8	継続	あだち放課後子ども教室事業	児童が安全に体を動かして遊べる場所	「放課後子ども教室」において、校庭や体育館を使って運動あそびができる学校数	69校	68校	68校	67校	67校	67校	A	【総括】 全ての放課後子ども教室において、校庭や体育館を活用し、児童が安全に体を動かす場所を確保することができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 放課後子ども教室において、校庭や体育館を利用することにより、放課後の時間帯に児童が自由遊びの中で安全に体を動かすことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 校庭や体育館での活動により、児童が体を動かすことの楽しさを知り、運動能力や体力の向上に寄与するため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 放課後子ども教室の利用案内や各小学校での登録案内、広報紙、ホームページ等において、校庭や体育館での遊びの様子やその意義について周知した。	67校	(全校) 67校 統合 R4 1校 R5 1校	生涯学習振興公社	
		9	継続	生涯スポーツ施設の管理・運営	スポーツ施設の改修件数	・大規模改修など、年次計画において予定された年間の施設改修件数 ・増加目標ではなく、予定件数を滞りなく行うことが目標 ※行政評価指標（21820 生涯スポーツ施設改修事業）	8件	2件	5件	5件	4件	3件	B	【総括】 令和6年度に予定されていた改修工事については、故障が予定通り実施した。総スポテニス棟空調設備機械については事業者不調により延期。 【事業の目的（施策への貢献）】 計画的に施設を改修し、スポーツできる施設を維持していくことが、スポーツを身近に感じることができる環境づくりに貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 建築基準法第12条点検を踏まえ、優先順位を付けて計画的に施設を改修していく。 【事業の周知】 あだち広報や区ホームページ及び掲示物を館内掲示等で周知した。	5件	・総スポ テニス棟防災設備改修、テニス棟照明の改修 ・東綾瀬 テニス棟空調設備機械改修 稼働屋根改修発注 消防設備盤更新設計委託	10件	スポーツ振興課
		10	新規	ウォーキングチャレンジ	事業参加者数	イベントの参加者数（年1回開催）	新規	1,093名	692名	1,290名	1,400名	1,194名	A	【総括】 令和6年度から新企画として「お友達・家族部門」、「事業者部門」を開設した。前者については多くの応募をいただいたが、後者については応募が伸び悩んでしまった。 【事業の目的（施策への貢献）】 取り組みやすいウォーキングを始めとして、日頃の運動量の見直しや、運動・スポーツの楽しさに気づきかけづくりに寄与する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 体力づくりや運動・スポーツを楽しむきっかけづくりに寄与できるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、区ホームページ、チラシで周知した。	1,400名	・継続して参加者の抽選プレゼントを行い、参加者増加を図る。 ・事業者部門の応募を増加させるため、PR方法を検討する。	1,500名	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A: 目標に対して80%以上 B: 目標の60～80%未満 C: 目標の40～60%未満 D: 目標の20～40%未満 E: 目標の20%未満 ×: 実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
3 運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出	3-1 運動・スポーツをささえる組織の支援と連携強化	1	継続	スポーツ協会の活動支援	加盟団体への後援事業参加者数	区が後援する体育協会加盟団体（36団体）の各種事業における年間の参加者数	27,243人	33,582人	43,580人	54,072人	25,800人	46,708人	A	【総括】 加盟団体が主催する大会や事業について、加盟団体からの申請に基づき後援承認している。後援により、区施設の使用料の減免措置などの支援をしている。 【事業の目的（施策への貢献）】 区民の運動・スポーツの振興、競技力向上、指導者養成、加盟団体の育成支援などに取り組むスポーツ協会を支援することにより、スポーツ活動を通じた活力ある地域社会づくりに貢献する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 区やスポーツ協会が事業後援することで、区民が組織する競技団体の自主性の高いスポーツ活動を推進することができる。 【事業の周知】 加盟団体向けの情報は、加盟団体連絡者協議会やHPを通じて周知した。	50,000人	・今後も自主的な区民の体力づくりやスポーツを楽しむ機会を支援していく。	50,000人	スポーツ振興課
		2	継続	スポーツ推進委員の活動支援	会議、研修会実施回数	全体会、研修会、運営部会、ブロック会議等の1年間の実施回数 ※行政評価指標（4147スポーツ推進委員会活動支援事業）	118回	59回	76回	82回	118回	83回	B	【総括】 地外研修（全国大会や関東大会）に積極的に参加する他、イベントや地域事業の前に研修を実施することで、ルールの確認や対応の仕方を共有することができた。またイベント・地域事業にて多くの方の従事があり、地域スポーツ振興に寄与した。 【事業の目的（施策への貢献）】 区や地区対が主催する運動・スポーツ事業には、指導者として関わり、円滑な運営に貢献している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 イベントで担当するスポーツの指導方法やバラスポーツの知識を研修で習得しており、イベントや地域事業への指導者派遣につながっている。 【事業の周知】 スポーツ推進委員の活動は、区ホームページや広報紙などで周知した。	118回	・会議、研修等で運動・スポーツのルールや対応の仕方を全体で確認・共有し一層、身近に取り組める運動・スポーツの普及に貢献していただけるよう理解と協力を求めている。	130回	スポーツ振興課
		3	拡充	地域スポーツミーティングの展開	会議の参加団体数	1年間に開催される各地域別の会議及び全体会に参加した団体・組織の総数（実数）	25団体	8団体	26団体	0団体	45団体	40団体	A	【総括】 令和元年を最後に実施していなかったが、名称をバラスポーツミーティングとして実施した。54名の関係者が参加し、現状の課題の共有ができた。また、バラスポーツ専門家のリタ氏より貴重なアドバイスを頂戴した。 【事業の目的（施策への貢献）】 共生社会の構築に向け、障がい者の運動・スポーツのさらなる発展を図ることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 バラスポーツのステークホルダー間の情報共有・意見交換による連携強化、ネットワーク構築のため、今後も実施していく必要がある。 【事業の周知】 未実施	50団体	・ミーティングで出た課題を分析し、次の話し合いに繋げていく。 ・年度の複数回実施に向け、実施方法を再検討する。	66団体	スポーツ振興課
		4	拡充	【再掲】総合型地域クラブとの連携（2-1 No.6）	委託事業実施回数	9クラブへの委託事業の総実施回数	548回	531回	732回	771回	800回	821回	A	【総括】 各地域クラブで企画した委託事業がおおむね予定どおり実施できたことで、前年度より実施回数が増加した。 【事業の目的（施策への貢献）】 総合型地域クラブは区内9カ所の地域で自主的に運営される多世代・多層目型の団体である。各クラブが広く周辺住民を対象として事業を行うことで、運動・スポーツを通じた地域コミュニティの形成、高齢者の介護予防などに寄与することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 各クラブは地域に根差した活動を行っており、区民が身近に運動・スポーツを楽しめる場としてクラブを認知して利用していくことを促すことができるため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 各クラブの広報紙、ホームページにより周知した。	800回	・身近に運動・スポーツを楽しめる場として、各クラブと協議しながら実施していく。 ・継続的にバラスポーツ普及事業を実施し、障がい者も地域で運動・スポーツに取り組める環境を整えていく。	600回	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30策定時	R3実績値	R4実績値	R5実績値	R6目標値	R6実績値	R6達成度	R6取組状況	R7目標値	R7取組予定	R8目標値	所管課
3 運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出	3-2 運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング	1	継続	初級バラスポーツ指導員養成講習会	初級バラスポーツ指導員登録者数	講習会後に実際に資格の登録を行った人数(累計)	69人	143人	173人	192人	160人	203人	A	【総括】 前年度より微増ながら、累計値としては目標を大きく上回っている。 【事業の目的（施策への貢献）】 障がいの有無にかかわらずスポーツを楽しむ社会の実現に向けて、障がいの者のスポーツへの取り組みを支える人材を育成することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 受講者にはバラスポーツに対する意欲が高い方が多く、こうした方々に区への協力や各フィールドでの更なる活躍をいただくため、今後も事業の継続が必要である。 【事業の周知】 あだち広報及びホームページにて、講習会の情報を周知したほか、障がい福祉センターのネットワークを通じ、広く障がい福祉サービス事業所へ周知を行った。	223人	・受講者数自体は減少傾向にあるため、つながりの深いスポーツ関係者や障がい福祉サービス事業所へ広く講習会について周知する。 ・修了者が今後さらに意欲的に障がいの者のスポーツ推進を支援していけるよう資格取得後の区イベントや事業への協力を依頼する等、取得した知識を地域において実践できる場の情報提供を行っている。	230人	スポーツ振興課
		2	拡充	ささえる人材のマッチング制度の整備	ささえる人材への派遣協力依頼件数	区や地域で行っている運動・スポーツの関連事業にて、「区公認スポーツボランティア」「初級障がいの者スポーツ指導員」などの運動・スポーツをささえる人材に協力を依頼した件数	新規	8件	19件	32件	27件	18件	C	【総括】 スポーツ推進委員を学校や地域学習センターに、レクスポーツやバラスポーツの指導員として派遣をした。ポッチャひろばやバラスポーツ体験会、障がい福祉サービス事業所へのアウトリーチ事業などについて、初級バラスポーツ指導員を派遣した。 【事業の目的（施策への貢献）】 運動・スポーツを支える人材に事業協力を依頼することで、地域での活躍の場を提供することを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 団体・組織における人材不足を補うだけでなく、有資格者のニーズに応える役割を果たしているため、今後も継続して協力依頼を行う必要がある。 【事業の周知】 有資格者への文書での事業派遣依頼文送付、No.55のスポーツ指導者スキルアップ講座内で介護予防事業への協力依頼をすること等で周知した。	24件	・スポーツ振興課所管事業のみならず、他課での事業や総合型地域クラブのプログラムでも協力依頼できるよう連携強化を図る。 ・障がい福祉サービス事業所へのアウトリーチ時に、積極的に協力依頼できるよう、事業者と調整していく。	35件	スポーツ振興課
		3	新規	スポーツ関連人材育成のための研修の充実	研修回数	スポーツ協会スポーツ推進委員会パークで筋トレ講師 その他スポーツ指導員に対する研修回数の合計	新規	8件	7件	9件 298名	10件 200人	9件 525人	A	【総括】 スポーツ推進委員や指導員へ様々な研修会を行うことができた。実技研修だけでなく、救命研修やコンプライアンス研修なども行った。 【事業の目的（施策への貢献）】 地域において運動・スポーツにかかわる事業の運営支援を行うスポーツボランティアを育成する。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 スポーツサポーターになるためには養成講習会を2日間受講する必要があるが、イベントでの受付や補助が業務のメインのためハードルが高すぎるのではとの声もある。 【事業の周知】 研修ごとに募集の連絡をし、研修事業の周知をした。	10件 500人	・令和6年度に行った研修を引き続き行ったうえ、必要な研修を都度追加していく。	12件 240人	スポーツ振興課
		4	新規	学校訪問型パラ体験事業	実施校数	「学校訪問型パラ体験事業」を行った実施小学校数	新規	-	-	67校	67校	67校	A	【総括】 学校及び委託業者と綿密な調整を行い、全校で事業実施することができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 バラスポーツに親しみながら障がいの者のサポート方法を学ぶことで、児童が将来の共生社会実現のための担い手となっていくことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 道徳の「他者理解」の授業で、当該事業を活用して。アンケートの結果、9割以上の学校で事業内容が良かったと評価された。 【事業の周知】 校長会で依頼し、全校で事業実施することができた。	67校	・既に令和7年度のスケジュールは決定・通知済みのため、全校実施に向けて学校及び委託業者と密に連携をとっていく。	67校	スポーツ振興課

運動・スポーツ推進計画 活動指標管理表(令和6年度実施分)

【「達成度欄」評価基準】 A:目標に対して80%以上 B:目標の60～80%未満 C:目標の40～60%未満 D:目標の20～40%未満 E:目標の20%未満 ×:実施なし

注	施策	事業番号	区分	事業名	活動指標	指標の定義	H30 策定時	R3 実績値	R4 実績値	R5 実績値	R6 目標値	R6 実績値	R6 達成度	R6 取組状況	R7 目標値	R7 取組予定	R8 目標値	所管課
		5	継続	スポーツ指導者スキルアップ講座	講座参加者数	・運動・スポーツ指導の実践力アップのための講座（スポーツ指導者スキルアップ講座）の参加者数 ・年8回開催(定員：30人)	192人	53人	93人	87人	120人	84人	B	【総括】 講義と実技での講習会を実施。受講者には具体的な指導法も伝え、実践的な講習会となった。「高齢者の運動指導」では、シニアの運動特性やフレイル予防の重要性についてより深く学べるよう、区内大学（帝京科学大学）の教授にご講義いただいた。また「子どもの運動あそび」では、共栄大学の専任講師にご講義いただいた。 【事業の目的（施策への貢献）】 少子高齢化対策として「高齢者編」、子どもの体力低下対策として「子どもの運動あそび編」を区委託事業として実施している。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 高齢者や子どもを指導する地域スポーツ指導者、それらの活動に携わる方のスキルアップを図る実践講習会、学校関連の方から民間指導、またボランティア活動している方まで幅広く学んでいただけるため、継続して実施する。 高齢者編では区介護予防事業「パークで筋トレ」の体験を組み込み、指導のポイント等を共有した。 公認スポーツ指導員登録更新対象講座として位置づけしており「スポーツ指導者スキルアップ講習会」1回（4時間）受講すると、2単位を付与する取り組みを行った。 【事業の周知】 トキメキ、公社HP、ポスター・チラシにて周知した。	120人	・「子どもの運動あそび」年に一日で（講義1回、実技1回 計2回）を実施。 ・「高齢者の運動指導」年に一日で（講義1回、実技1回 計2回）を実施。	120人	生涯学習振興公社
		6	新規	元気アップサポーター養成研修	事業参加者数	研修参加者数（実数）	新規	45人	90人	103人	130人	82人	B	【総括】 既存の自主グループが活動を継続していくためのコツを学ぶ研修内容を実施した。 【事業の目的（施策への貢献）】 参加者が教室で身に付けた知識を自主グループに持ち帰り、フレイル予防の指南役になることを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 自主的に介護予防に取り組む自主グループが増え、今後は活動を継続していくため、研修を通じたサポーターを養成していく必要がある。 【事業の周知】 あだち広報、区のホームページ、地域包括支援センターと連携して高齢者へ案内している。	100人	・令和7年度も既存グループの継続支援を中心に実施していくが、参加者が低迷している現状を踏まえ、今後の事業のあり方を検討していく。	130人	高齢者地域包括ケア推進課
		7	継続	【再掲】あだち放課後子ども教室体験プログラム「放課後+One」（1-1 No.14）	運動プログラム実施校	「放課後子ども教室」における運動プログラム（投げる遊び、フラッグ鬼ごっこ、スポーツスタッキング、変則ドッジボール等）の実施校数	30校	7校	36校	67校	67校	67校	A	【総括】 運動プログラムについては、安全管理員（スタッフ）のもとで児童が自主的に楽しめるような運動遊びや遊具の紹介、他校の遊び方の情報提供を行い、指導者が不在でも実施可能な種目の導入に努め、目標に達することができた。 【事業の目的（施策への貢献）】 放課後子ども教室にて、地域人材等の協力を得て行うスポーツ体験や運動遊びをすることで、運動の得手不得手に関わらず、全ての児童が楽しく体を動かすことを目的としている。 【事業の必要性（ニーズの把握）】 校庭や体育館でのスポーツや運動遊びは、児童の運動能力や体力の向上に寄与するため、今後も継続して事業を行う必要がある。 【事業の周知】 実行委員会に対して、運動遊びを紹介する際、遊び方の手順書を添付し、スムーズに導入できるよう働きかけを行った。	67校	・放課後の時間帯に、地域人材による安全管理員（スタッフ）の見守りのもと、参加児童が自主的に運動・スポーツを楽しめる場として、引き続き実施する。	(全校) 67校	生涯学習振興公社

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり
施策名	1-1	子ども・成人・高齢者・障がい者が運動・スポーツを楽しむためのきっかけづくり
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

年齢や生活環境、健康状態、障がいの有無等によって取り組みたいと思う、または取り組むことができる運動・スポーツは異なる。こうした状況をふまえ、ライフステージや個々の状況に応じた、きめ細やかな施策・事業を展開する。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	区民のスポーツ実施率							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	35.9%	実績値	35.9%	35.2%	-	-	-	(50.0%)
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	70.4%	-	-	-	

指標名②	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	70.7%	82.6%	78.3%	88.1%	90.5%	(85.0%)
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	97.2%	92.1%	103.6%	106.5%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	18	10	3	2	0	0	33
%	55%	30%	9%	6%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値 R6年度未実施
指標②実績値(88.1%→90.5%)はR5年度を上回り、R8年度の目標値(85.0%)も上回った。
【要因分析】
(1) 指標②については、R5年度からコロナの5類移行によりイベントの参加が容易となり、スポーツの楽しさを感じられる場の増加から、意欲向上に繋がったと推測される。また、既存事業の見直しをはかったことで、参加者増加も要因の1つとなったと考えられる。
【その他実績等】
(1) 様々な年代向け事業の工夫
ア みるスポーツの拡充や、親子体験会の募集人員の増加により、参加者の増につなげた。
(2) パークで筋トレ事業は、新規会場の増設や、新規参加者獲得と継続参加につながるキャンペーンを実施したことにより、R5年度より参加者数を伸ばすことができた。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
(1) 多様化する様々な年代や対象者へのスポーツに対する取り組みについて、活動の定着と、参加のしやすさ、またモチベーションを維持する企画の工夫を継続していく。
(2) 引き続き、運動に取り組んでいない方に対し、気軽に参加できる事業を実施し、「健康」や「仲間づくり」といった運動やスポーツから得られるものをPRし次の参加や習慣化につながる工夫を行っていく。
【中長期の取り組み】
(1) 運動やスポーツに取り組めていない方へのアプローチ方法やきっかけづくりに注力する。注目される競技は変化しているため、集客や効果的に取り組めるものを注視しながら対応していく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 参加者が減少している事業内容を検討し、企画内容のブラッシュアップをおこなったことは評価できる。
- イ 誰でも参加しやすい事業として、ウォーキングチャレンジが根付いてきた。
更なる参加者アップのために、ターゲット層となる区内社会人へのアプローチ方法に工夫がほしい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 様々な年代や対象者にむけ、参加しやすい企画の工夫をしていく方向性は評価できる。今後も参加者のニーズをキャッチし、既存の内容にとらわれずに事業の工夫を行ってほしい。
- イ すでに運動・スポーツに取り組んでいる方ではなく、取り組むことにハードルを感じている方に楽しさを感じてもらうため、スポーツを入り口としない事業内容の工夫に期待する。
競技スポーツだけではなく、一人でも、どんな場所でも、気軽にといったキーワードを意識した区の後押しが大切であるとする。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツを気軽に楽しむための機会づくり						
施策名	1-2	だれもが運動・スポーツを「する」「みる」機会の充実						
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課							
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入 推進委員会：5を記入							

1 施策の方向性

ライフステージ等に応じた運動・スポーツを楽しむ機会の充実だけでなく、世代や障がいの有無を越えて、だれもがともに同じ空間で運動・スポーツに親しみ、楽しみや喜びを共有できる機会を充実させていくことは、人と人との結びつきや地域の絆を形成していくために重要である。
区民のスポーツに対するニーズに応じて、運動・スポーツを「する」だけでなく、「みる」機会の充実を図り、運動・スポーツを通じて多様な区民が交流する共生社会の実現へとつなげていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	運動・スポーツを観戦した区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、頻度にかかわらず、過去1年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	65.9%	実績値	65.9%	42.1%	-	-	-	(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	52.6%	-	-	-	

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	35.9%	35.2%	-	-	-	(50.0%)
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	70.4%	-	-	-	

指標名③	イベント後に運動・スポーツへの意欲が向上した区民の割合【再掲】							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、運動・スポーツを「ほとんどやらない」と回答した方のうち、イベントに参加して運動・スポーツをやりたいと「思った」「やや思った」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	82.6%	78.3%	88.1%	90.5%	(85.0%)
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	97.2%	92.1%	103.6%	106.5%	

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	2	1	1	0	0	11
%	64%	18%	9%	9%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①、②実績値 R6年度未実施

指標②、③は再掲（施策1-1）

【要因分析】

(1) 指標③については、R5年度からコロナの5類移行によりイベントの参加が容易となり、スポーツの楽しさを感じられる場の増加から、意欲的向上に繋がったと推測される。また、既存事業の見直しや新規事業の開催により、イベント参加者増加も要因の1つとなったと考えられる。

【その他実績等】

(1) コロナの5類移行によるイベント参加者の増

ア あだち広報やホームページ、SNSのほか、関係施設にチラシやポスターを配布するなど広く周知することにより、参加者の増加につながった。（スポーツカーニバル R5：4,118人→R6：7,321人）

イ 各種スポーツ大会の開催、選手派遣の増。（R5：13,671人→R6：16,584人）

(2) 民間事業者との連携に基づくプロスポーツチームとの連携事業

ア R5年度に引き続き東京ヴェルディと連携し、WE（女子プロサッカー）リーグとJ1（男子プロサッカー）リーグの区民観戦デーを実施し、「みる」スポーツの機会拡大に取り組んだ。

(3) パラスポーツに触れる機会の拡大

ア スペシャルクライフコート的一般利用の促進やスポーツコンシェルジュによる障がい者施設へのアウト

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

(1) プロスポーツチームを有する企業・団体との連携を強めることで、様々な競技の「みる」機会や「体験する」機会を増やし、さらに拡充していく。

(2) 運動やスポーツをすること自体にハードルが高いと感じる区民に対するアプローチ方法として「みる」スポーツや気軽に取り組める「ぶちスポ」を広げていく。

【中長期の取り組み】

(1) オリンピックやパラリンピック、デフリンピック、世界陸上といった国際試合などでスポーツがとりあげられる機会を捉え、より区民に運動・スポーツを身近に感じてもらえる「区民アスリート」の紹介や、パブリックビューイングの実施などを計画的に実施していく。

(2) ボッチャひろばの継続など、誰でも気軽に参加できる競技を継続的にやっていく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 区に縁のあるプロスポーツ選手やスポーツチーム・事業者との連携により「みる」スポーツの機会の拡充や、体験会内容の充実につなげることができたことは評価できる。
- イ イベントにおける対象者や目標とする活動内容を明確にし、その時々状況に応じた企画を検討することが重要である。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア オリンピック、パラリンピック、世界陸上、デフリンピックといった国際大会が開かれることをきっかけに、様々な競技を覚えたり、興味を持ってもらうことが大切と考える。区民の関心の裾野を広げる活動に期待したい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	1	運動・スポーツの楽しみを深める場の提供
施策名	1-3	運動・スポーツに関する情報の効果的な発信
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

施設情報や利用の仕組み、講座やイベント等の情報、総合型地域クラブや競技団体等の運動・スポーツに関する情報を、区民が必要とするときに入手できるよう、よりわかりやすく発信していく。また、運動・スポーツを生活の中で身近に感じることができるようその意義や効果を、より多くの区民に周知していく。
このほか、ホームページやSNSなどを活用し、情報を充実させていくとともに、各学習センターにおいて、複合施設という特徴を活かし、文化・読書・スポーツに関する情報を、一体的に区民に届けていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	運動・スポーツに関心のある区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツに「関心がある」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	70.7%	実績値	70.7%	69.9%	-	-	-	(85.0%)
目標値（R8）	85.0%	達成率	-	82.2%	-	-	-	-

指標名②	運動・スポーツの機会の充実度							
指標の定義	スポーツ振興課所管イベントの参加者アンケートにて、区が実施している運動・スポーツに関するイベントや教室などについて「とても充実している」「充実している」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	61.9%	65.7%	67.0%	73%	(70.0%)
目標値（R8）	60.0%	達成率	-	103.2%	109.5%	111.7%	121.5%	-

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	1	1	1	0	0	1	4
%	25%	25%	25%	0%	0%	25%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値 R6年度未実施

指標②実績値（67%→72.9%）はR5年度実績およびR8年度の目標値（70%）を上回った。

【要因分析】

- (1) コロナの5類移行後も事業の継続実施や、新規事業の実施をしたことで、区民の運動・スポーツの機会の充実度を評価されたと推察される。

【その他実績等】

- (1) ホームページのアクセス数

ホームページのアクセス数の大半を占めるスポーツ施設関連は大きな増減が見られなかったが、スポーツカーニバルなどのイベントはアクセス数が増加した。

- (2) 発行物の工夫による情報発信

毎年実施している事業は、デザインイメージをあまりかえず、継続した事業であることを印象づけた。新規事業では対象となっている年代層を絞ってチラシを配送し、興味を引くようにした。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- (1) 事業内容とターゲット層に合わせた手法で、一つの媒体に偏らない情報発信方法を工夫する。
(2) 運動・スポーツ以外からの興味・関心をもてるようスポーツを入り口としない情報発信を行うなど、新たな視点と手法を継続して工夫する。

【中長期の取り組み】

- (1) 自分にあった運動・スポーツを楽しめるよう、多種多様な運動・スポーツの情報発信につとめる。
(2) オリンピックやパラリンピック、デフリンピック、世界陸上といった国際試合などでスポーツがとりあげられる機会を捉え、細やかな発信を継続していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア ホームページのアクセス数が、施設の休館確認のためにアクセスの多かったコロナ禍に比べ伸びていることは評価できる。
- イ 発行物やホームページなどの情報発信をきっかけに運動・スポーツの楽しさを伝えられる工夫を今後も期待する。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 国際的なスポーツ大会やイベントをきっかけに運動・スポーツへの興味・関心を高める発信を工夫していく方向性は評価できる。
- イ 小中学生へのアプローチがチラシからC4thHome&Schoolに変更されたが、子どもが直接持ち帰る情報ではなく、保護者のフィルターがかかることを前提に発信の内容やタイミングの工夫をしてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	2	運動・スポーツの楽しさを深める場の提供
施策名	2-1	身近な場所における運動・スポーツの推進
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

稼働率の高いスポーツ関連施設を新規利用者にも提供できるよう利用調整などの環境改善を行うだけでなく、自宅や職場など生活に身近な場所で気軽にできる運動・スポーツを推進していく。また、地域での活動やコミュニティの拠点となる学校、区施設、総合型地域クラブと連携し、運動・スポーツをより身近に感じることができ環境づくりに取り組んでいく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	身近な場で運動・スポーツを行う区民の割合							
指標の定義	世論調査にて、運動・スポーツを行っている場所について「自宅」「自宅周辺」「職場」「職場周辺」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規実績値	新規	75.2%	69.0%	73.3%	70.0%		(80.0%)
目標値（R8）	80.0%	達成率	-	94.000%	86.3%	91.6%	87.5%	

指標名②	よく行く、行きたい公園がある区民の割合							
指標の定義	世論調査にて、「よく行く、または行きたい公園がある」と回答した方の割合							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	43.3%	実績値	43.3%	50.3%	51.2%	46.8%	50.2%	(52.3%)
目標値（R8）	52.3%	達成率	82.8%	96.2%	97.9%	89.5%	96.0%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	7	3	0	0	0	0	10
%	70%	30%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

<現在の達成状況>R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①実績値（73.3%→70.0%）はR5年度を下回り、R8年度の目標値（80.0%）も下回った。

指標②実績値（46.8%→50.2%）はR5年度を上回り、R8年度の目標値（52.3%）は下回った。

【要因分析】

- (1) 自宅や職場、その周辺といった身近な場所で、運動・スポーツに取り組む区民の割合は70%であり、目標を下回った。しかし、令和4年度から70%と横ばいであり、定着が進んでいると考えられる。

【その他実績等】

- (1) 年代に応じた身近な場所における運動・スポーツ事業の実施

ア パークで筋トレについては、R6年度に会場を2箇所増やし40箇所で開催している。多くの方が身近で気軽に参加できる場が確保された。

イ 区スポーツ施設における「スポーツ広場」の実施など、身近なところで行える運動・スポーツのきっかけとなる場を提供した。

- (2) 総合型地域クラブとの連携

ア 各地域クラブで企画した委託事業がおおむね予定どおり実施できたことで、R5年度よりも実施回数が増加した。

<今後の方向性>現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- (1) スポーツ施設に頼らない運動・スポーツの場の提供を工夫していく。
 (2) 身近なところで、いつでも、どこでも気軽にできる運動に関する発信を行っていく
 (3) 区主催事業であっても、関係する民間事業者への協力や共催などを取り入れることで、区外での体験や活動の場についても広げていく。
 (4) 誰でも安全に利用できる施設運営や事業実施に取り組んでいく。そのための施設管理者や指導者の安全管理意識を高めていく。

【中長期の取り組み】

- (1) 区スポーツ施設の老朽化に伴う施設更新の計画、保守点検の平準化に取り組む。
 (2) 区スポーツ施設の整備・維持とともに、民間スポーツ事業者との連携を含め、より運動・スポーツを身近に楽しめる場の新たな提供や事業展開に取り組んでいく。

<助言の反映状況>助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
 令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	5	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 各地域学習センターにおける「ちょいスポ」の取組みは、運動実施率の低い世代に有効な取組みであり、多くの学習センターのメニューに取り入れられるようになった。
- イ 身近な場所がスポーツ施設といった発想にとらわれず、広場や公園、学習センターの会議室など活動の場を広げたことは評価できる。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 身近な場所として親しまれるスポーツ施設が安全に使用できることは大前提であるが、老朽化がすすんでいるため、指定管理者とともに定期的な保守や管理方法の確立が大切である。
- イ 民間事業者へのアプローチは区施設だけではない可能性がある。今後の取り組みの方向性として評価できる。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の方考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	3-1	運動・スポーツをささえる組織の支援と連携強化
担当部・課	地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課	
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

体育協会やスポーツ推進委員会など、運動・スポーツをささえる組織を支援し、運営基盤を強化していく。また、地域において組織として期待される役割を意識共有し、組織間の交流を促すなど、連携強化に努めていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	関係団体との連携事業の実施回数							
指標の定義	「スポーツ協会」「スポーツ推進委員」「総合型地域クラブ」のスポーツ関係団体のほか、民間企業などとの連携により実施した事業の実施回数（※ 定義時には実施回数とあるが数値は事業数）							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	24回	実績値	24回	10回	16回	23回	22回	(35回)
目標値（R8）	35回	達成率	-	28.6%	45.7%	65.7%	62.9%	

指標名②	区民のスポーツ実施率【再掲】							
指標の定義	3計画アンケートにて、運動・スポーツを「週に1日以上実施している」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	35.9%	35.2%	-	-	-	(50.0%)
目標値（R8）	50.0%	達成率	-	70.4%	-	-	-	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	3	1	0	0	0	0	4
%	75%	25%	0%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】

指標①（23回→22回）はR5年度実績およびR8年度の目標値（35回）を下回った。

※ 区主催事業、各団体、民間企業への委託事業は連携活動に含まない。

指標②は再掲（施策1-1）

【要因分析】

（1）R4年度から開催した民間連携事業「区民観戦デー」を拡充して開催した。

（2）事業の見直しを行っているものもあり、目標に達することが難しかったと推察する。

【その他実績等】

（1）スポーツ推進委員の地域イベント参加

コロナの影響以降、学校や町会等地域団体の要望に応じ、スポーツ推進委員が指導員や体験教室を行い普及に努めた。継続して活動をしている地域団体もあり、定着に寄与した。

（2）スポーツ協会加盟団体の活動支援

コロナの5類移行、活動を再開していく大会や事業について後援承認を行い支援をしている。R5の実績値からは減少したが、R8目標値には近い実績となっており、地域活動支援に寄与した。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】

- 障がい者も含め、誰もが身近なところで運動・スポーツに取り組めるよう、さらに区内団体の活動の活性化と環境を整えていくために「足立区パラスポーツ推進協議会」を立ち上げ、そこでの協議を深めていく。
- 民間事業者との連携により、より多くの運動・スポーツに触れる機会の創出を図っていく。

【中長期の取り組み】

- 区に関連するスポーツ関係団体や民間事業者、パラスポーツ活動における協働・協創パートナーなど相互の情報交換や相互交流を図る機会を提供し、ネットワークづくりに注力する。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
3	3	3	—

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア スポーツ推進委員会やスポーツ協会加盟団体といった地域で活動する人材を中心に、スポーツを定期的に身近な場所で行える状態を保つ取り組みが組織的に行われていることを評価したい。
- イ 学校や町会等地域団体に対するアウトリーチ事業は、身近にできる運動・スポーツ活動の定着に効率的であり、その活動の広がりに今後も期待する。
- ウ パラスポーツに特化した協議会で関係者が集まり様々な検討が深まることを期待したい。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア 民間団体にまで連携先を広げ、区民の運動・スポーツの機会の拡充に取り組む方向性は評価できる。
- イ 誰でも楽しめるスポーツの機会の提供に団体が果たす役割を意識した活動につながることを期待する。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

運動・スポーツ推進計画 施策評価シート（令和6年度実施事業分）

施策の柱	3	運動・スポーツをささえる人材の育成と活躍の場の創出
施策名	3-2	運動・スポーツをささえる人材の育成とマッチング
担当部・課		地域のちから推進部 生涯学習支援室 スポーツ振興課
担当部：1～3、6を記入	庁内検討委員会：4を記入	推進委員会：5を記入

1 施策の方向性

運動・スポーツを通して人と人とのつながりや、地域のコミュニティを醸成していくために、区民の運動・スポーツをささえていく多様な人材の育成支援に取り組んでいく。
また、地域のニーズを把握し、こうした運動・スポーツをささえる人材が、適切な場で活躍できるようマッチングする仕組みを整えていく。

2 成果指標

※R8は目標値

指標名①	運動・スポーツをささえる活動を行った区民の割合							
指標の定義	3計画アンケートにて、過去1年間に運動・スポーツをささえる活動をしたことが「ある」と回答した方の割合【令和3年度実施】							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	16.8%	実績値	16.8%	11.4%	-	-	-	(35.0%)
目標値（R8）	35.0%	達成率	-	32.6%	-	-	-	

指標名②	スポーツボランティアの地域イベントへの協力人数							
指標の定義	運動・スポーツをささえる活動に従事した「公認スポーツボランティア」「障がい者スポーツボランティア」などの延べ従事人数							
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）	新規	実績値	新規	297人	479人	487	584	(820人)
目標値（R8）	820人	達成率	-	36.2%	58.4%	59.4%	71.2%	

指標名③								
指標の定義								
		H30	R3	R4	R5	R6	R7	R8
現状値（H30）		実績値						
目標値（R8）		達成率						

施策の手段として位置づける対応事業の達成度分布

進捗度	A	B	C	D	E	×	合計
事業数	4	2	1	0	0	0	7
%	57%	29%	14%	0%	0%	0%	100%

3 担当部における評価

＜現在の達成状況＞R8目標値に対する達成状況、要因分析、その他実績等

【達成状況】
指標①実績値 R6年度未実施
指標②実績値（487人→584人）はR5年度を上回り、R8年度の目標値（820人）を下回った。
【要因分析】
（1）指標②はコロナ以降参加可能なイベントが再開しているが、ボランティアとして活動する人材が固定化されている。増加はしているが、目標まではまだ遠い実績となった。
【その他実績等】
（1）学校訪問型パラ体験事業
令和5年度から実施し、学校および委託事業者と綿密な調整を行い、令和6年度も全小学校で実施することができた。
（2）スポーツ関連人材育成のための研修の充実
スポーツ協会、スポーツ推進委員会、その他スポーツ指導員に対する研修に参加した人数が、525人と大幅に増加し、ささえる人材の活躍の場を広げ、スキルアップにつなげている。

＜今後の方向性＞現在の達成状況を踏まえた今後の方向性等

【短期の取り組み】
（1）ささえる人材の活動の場を拡充し、パラスポーツをはじめとする誰もが取り組める運動・スポーツの普及に取り組む。
（2）スポーツイベントの受付のような対人的なスキルや、指導補助などこれまでの経験を生かす様々な活動の場を創出することで、より多くの人材の参加とスキルアップを図っていく。
【中長期の取り組み】
（1）組織の垣根を超えた連携と、安全に配慮できる専門的な指導者育成と活躍の場を検討する。また、指導者の安全に対する意識向上のための研修を実施し、団体相互で情報を共有化していく。

＜助言の反映状況＞助言の反映有無、その理由

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

4 庁内検討委員会による評価（2次評価）

全体評価	達成度	方向性	反映状況
4	4	3	－

(1) 「現在の達成状況」への評価

- ア 支える人材に対し、より多くの研修や講習会に参加してもらえよう工夫し、スキルアップに努めていることは評価できる。
- イ 指導者とボランティアといった役割の違いによって対応できる内容を明確にし、支える活動に参加しやすい工夫を期待する。

(2) 「今後の方向性」への評価

- ア より安全に運動・スポーツの指導や、障がい者のスポーツをささえるためのスキルを身につけられる仕組みを工夫してほしい。
- イ 区以外の都内で行われるスポーツイベントなどに参加しキャリアを積む区民もいると思われるため、幅広く区の情報以外にも情報発信をしてほしい。

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。
令和7年度に、外部評価を実施し、令和8年度に、令和7年度実施事業分として、評価の反映状況を記載します。

5 推進委員会による評価（令和7年●月記載）

全体評価	達成度	方向性	反映状況

(1) 「現在の達成状況」への評価

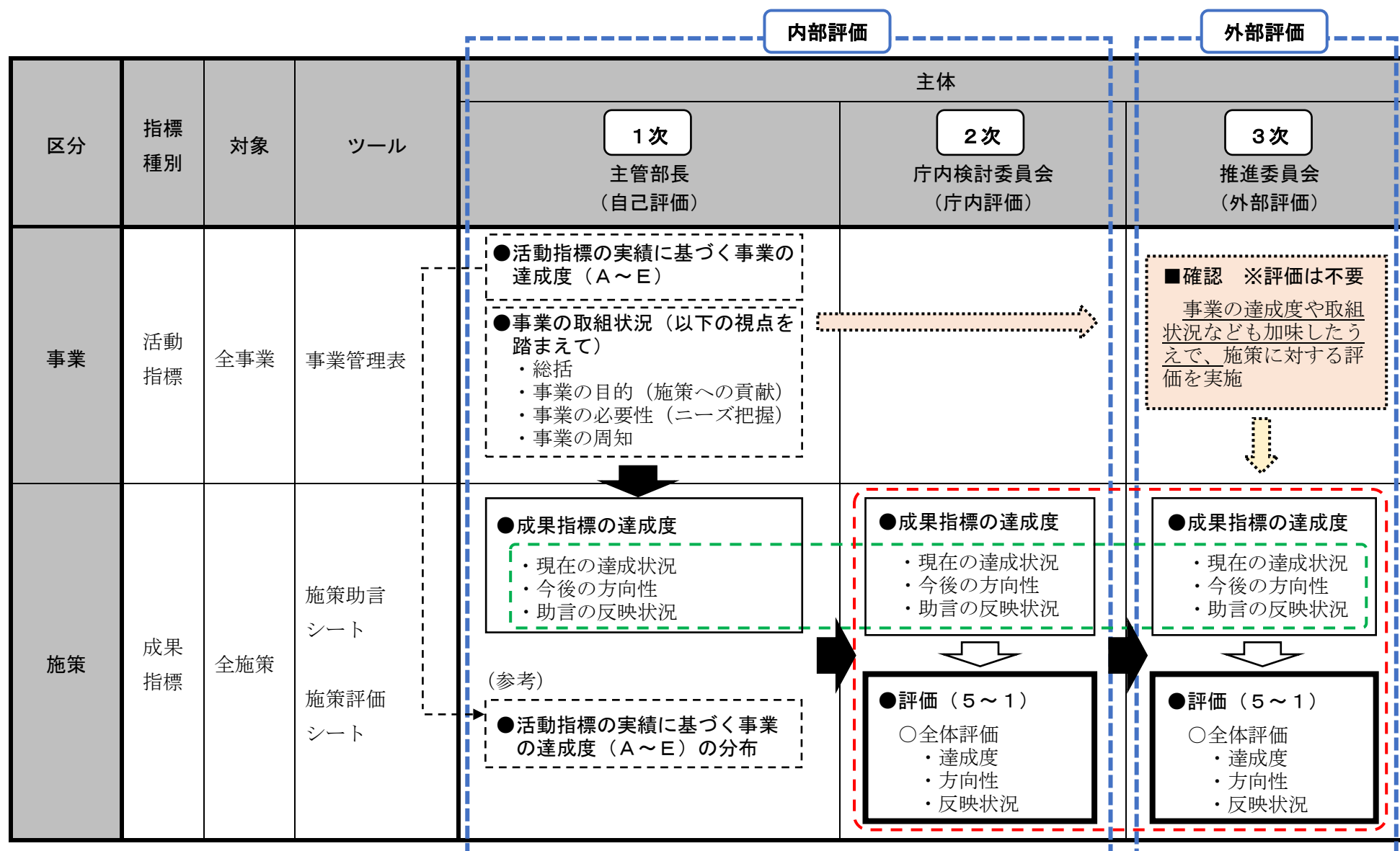
(2) 「今後の方向性」への評価

(3) 「助言の反映状況」への評価

令和6年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、空欄となります。

6 推進委員会評価に対する区の考え方（項番等は「5 推進委員会による評価」に合わせて記載）（令和7年●月記載）

足立区文化・読書・スポーツ分野計画 評価体系



足立区文化・読書・スポーツ分野計画（２次・３次評価） 評価基準

資料５－２

視点別 評価	①現在の達成状況	②今後の方向性	③反映結果※
	目標に対して成果が十分に出ているか	各取組みが施策の方向性に沿ったものか 施策の実現に向けた手法は適切か	前年度の推進委員会の評価（助言）が 反映されているか
５	優れた取組みが多く、施策の目標達成に向け、十分な成果が出ている。	各取組みが施策の方向性に合致しており、手法も適切で積極的に推進すべきである。	評価（助言）以上に反映した。 （反映率：100%以上）
４	優れた取組みがいくつかあり、施策の目標達成に向け、成果が出ている。	各取組みが施策の方向性に合致しており、手法も概ね適切である。	評価（助言）を積極的に反映した。 （反映率：70%程度）
３	いくつかの取組みに成果は出ているものの、施策の目標達成に向けさらなる工夫が必要である。	各取組みが施策の方向性に概ね合致しており、手法も概ね妥当である。	評価（助言）をある程度反映した。 （反映率：50%程度）
２	いくつかの取組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果があまり出ていない。	各取組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法にやや課題がある。	評価（助言）の反映が消極的である。 （反映率：20%程度）
１	多くの取組みにおいて課題があり、施策の目標達成に向けての成果が出ていない。改善が必要である。	各取組みが施策の方向性に合わない部分があり、手法を抜本的に見直す必要がある。	評価（提言）が全く反映されていない。 （反映率：0%程度）

【全体評価：視点別評価点の合計】

重点項目施策※	15～13	12～10	9～7	6～5	4～3
	5	4	3	2	1
その他の施策	10～9	8～7	6～5	4～3	2
	5	4	3	2	1

※ 令和６年度については、推進委員会による外部評価を実施していないため、全ての施策で、③前年度の助言（評価）反映結果がありません。
このため、令和７年度の全体評価については、全ての施策で、①②の視点の合計点（10点満点）に基づき、5段階で評価します。

運動・スポーツ活動推進計画 評価実施状況（令和３年度）

令和３年度の助言（令和３年度報告書から）	令和３年度の助言の反映結果（令和４年度評価シートから）
１ 新しい生活様式を視野に入れた、身近な場所での運動習慣化へ 自宅から離れた場所で実施されるスポーツは、様々な条件の調整がつけば参加可能であるが、実際には継続的な参加は難しい。また、コロナ禍においては、集団で運動・スポーツをすることや、活動場所や行動そのものにも制限がかかる。 まずはどのような環境であれ、時間的にも物理的な制約が少ない「身近な場所」で運動が可能となるような工夫が求められる。極力負担の少ない状況で、いつでも、だれでも運動できるしかけをつくり、区民の運動の「習慣化」を目指したい。 （１）自宅・自宅近くの公園・オンラインの活用 乳幼児の子育て中の人が一人で運動・スポーツをしようとする場合は、子どもを預かってもらうことが必要であるし、障がいを持っている方は、ヘルパーの確保が必要となる場合もある。仕事が生活の中心となる 30 代から 50 代の中高年は、そもそも運動時間の確保そのものが難しい。 そのような場合であっても運動に取り組める切り口として、「自宅」「自宅近くの公園」「近所のウォーキング」「オンラインの活用」等が考えられる。具体的なアイデアとしては、決まった時間に音楽を流して体操を意識づけたり、健康器具設置の公園を増やしたり、公園に民間のインストラクターを派遣したり、近所の見どころ散歩コースを紹介したり、隙間時間でも実施できる「おうち体操」やエクササイズをオンラインで発信したりするなどはいかがだろうか。 （２）継続のための工夫 取り組むきっかけを発信し、次はそれをいかに継続できるよう工夫するかがカギとなる。既存の集客事業にとらわれず、区民一人ひとりが気軽に取り組める仕掛けを組み込んだ事業展開に期待したい。 ２ 三分野を活用した運動・スポーツへのきっかけづくり 運動・スポーツに関心がない方は、自発的に HP 等からその分野の情報にアクセスすることは少ないであろう。一方、東京 2020 大会を通して、日頃関心がなかったり、見たことがなかったスポーツも含め、多くの競技シーンを目にする機会が増えた。これを契機に運動・スポーツへの興味を高め、区民の意識に残すためには、まずは、様々な競技シーンの PR 動画作成など、視覚的に運動・スポーツの魅力がわかる発信が求められる。 （１）「みる」スポーツの充実 東京 2020 大会のテレビ観戦などで目にしたパラスポーツも含めた新しいスポーツや、脚光を浴びた競技を中心に積極的に紹介し、「みる」スポーツを通して運動への関心を高めることを提案したい。	施策 １－２ （１）「指導者がいて手軽にできるスポーツの検討」という助言を受け、パークで筋トレの会場を増設し、スポーツ広場や障がい者運動教室等を実施した。世代や身体状況に合わせた事業を身近で開催した。 （２）『誰もができるスポーツ』を取り入れてみるとよいのではないかと助言を受け、ウォーキングチャレンジの継続実施、ボッチャ広場（例月の体験会）及びボッチャ大会の実施を計画した。 施策 ２－１ （１）「区の資源となる公園、民間スポーツ施設、大学等の活用で区民の運動・スポーツ事業の検討を」との助言に対し、ウォーキングチャレンジへの民間事業者単位での参加や、民間スポーツ事業者のトレーナーからの専門的なアドバイスを区 SNS で発信するなど、事業協力を得て協力関係を築いた。 施策 ２－２ （１）「スポーツ所管以外からの様々な情報を連携し、幅広い興味関心を広げる取り組みを」という助言について、ウォーキングマップの掲載 HP に公園管理課からの情報を生かし、「花」がみられるコース表示に取り組んだ。

令和３年度の助言（令和３年度報告書から）	令和３年度の助言の反映結果（令和４年度評価シートから）
（２）運動・スポーツ以外の切り口からの導入 運動・スポーツに興味がない層へは、三分野連携という視点を今以上に活用してほしい。集客して観戦をすることが難しくても、雑誌や本で運動・スポーツを「見る」こともできる。さらに知識を得ることで、運動・スポーツへの興味を深めることもできる。スポーツ選手がおすすめる書籍や、競技そのものを紹介する雑誌や本を紹介する「ちょい読み」といった取り組みをもっと広めてほしい。 また、「花や野鳥や歴史×ウォーキング」などの組み合わせで「ちょいカル」を実践するなど、運動・スポーツ以外の切り口からの導入で、運動への関心を高める仕掛けづくりをさらに期待する。 ３ スポーツを通した共生社会の実現に向けて 身近なところで、誰もが参加できるスポーツの実現のためには、障がいの有無、年齢、性別、国籍に関わらず、様々な人々が分け隔てなく生活できる共生社会の視点が欠かせない。そのためには、情報発信の工夫、スポーツボランティアやスポーツコンシュエルジュの活用、インクルーシブな環境形成、地域スポーツミーティングの積極的な展開を提案したい。 （１）情報発信の工夫 視覚障がい者が情報を理解できるよう足立区の HP を音声で読み上げたり、外国人が理解できるよう多言語で発信したりなどの配慮が必要である。 （２）スポーツボランティアの活用 区スポーツ施設内にスポーツボランティアを配置し、一緒に活動に参加し、着替えを手伝ってもらうなどちょっとした寄り添いや手伝いが得られる仕組みづくりに取り組んでみてはいかがだろうか。 （３）インクルーシブな環境形成 施設の段差、トイレの整備、点字での案内などの整備が挙げられる。これらの整備状況や、移動支援等の福祉分野の情報は、障がい者が運動・スポーツに取り組めるかどうかを判断するためには欠かせない。スポーツコンシュエルジュが相談を受ける際、競技の紹介にとどまらず、情報発信のハブとして、より積極的に実際の活動につながる情報の提供を心がけられたい。 （４）地域スポーツミーティングの積極的な展開 部活動の指導員や体育協会に加盟する競技スポーツ団体の指導員、子ども自身にも参加してもらい、勝利至上主義や技術力の向上のみではなく、共生社会の視点や生涯スポーツの視点、スポーツの楽しさ、健康維持につながる取り組み等、様々な視点を養っていただきたい。併せて、オランダとの連携も継続し、共生社会の新しい価値観の啓発を強化していただきたい。	

運動・スポーツ活動推進計画 評価実施状況（令和４年度）

令和４年度の評価（令和４年度報告書から）	令和４年度の評価の反映結果（令和５年度評価シートから）
１ パラスポーツを障がい者とのコミュニケーションツールとして普及 パラスポーツは、障がいに合わせて開発されたスポーツであるが、障がい者のみでなく、スポーツの得意不得意や、年代に関わらず誰もが参加できるスポーツである。パラスポーツへの理解、参加をきっかけに、障がい者や多様な立場の人とのコミュニケーションツールとして活用してほしい。 （１）教育現場の体験実施率を上げるなど、教育現場での普及への期待 障がい理解、生涯スポーツという視点からも、教育現場で積極的にパラスポーツを取り入れて頂きたい。パラスポーツが身近なものになることで、関心も高まるであろう。 （２）関心から一歩踏み込んだ行動へ パラスポーツの普及には、「障がい者と対戦する」だけでなく、健常者の審判やサポートが不可欠である。パラスポーツへの関心を高めることをゴールにするのではなく、一歩踏み込んだ主体的かつ積極的な参加を期待する。 ２ 誰もが「身近」で「気軽」に「個人」でも参加できる事業の充実 コロナ禍が長期化するにあたって、従来のスポーツ実施方法のみでは限界が見られる。また、昨今の気象状況を鑑みると、特に真夏の屋外スポーツには危険が伴う。 今後、様々な原因で我々の生活にいつでも行動制限が起こりうることを想定し、長期的な視点から新たな運動・スポーツの実施方法の検討が求められる。 （１）身近な公園のさらなる活用 コロナ禍の影響で、室内で遊ぶ子どもたちが増えている。子ども時代の体験が今後の運動・スポーツの実施率にも影響することを鑑み、身近な公園で身体を使って遊べる場（ボール遊び、冒険遊び場（プレイパーク）、インクルーシブ遊具など）の設置を期待したい。 一方、場の設置だけでは遊び方の理解や周知に限界があるため、公園で親子体験を実施したり、教育の場として近隣の公園や広場を使えば、外遊びや身体運動の機会も増えるのではないかな。 また、パークで筋トレの後に公園の一角で野外勉強会を行ったり、子どもが身体を使った遊びができるスペースに移動図書館の設置や、読み聞かせを実施できる場をつくるなど、誰もが身近に利用できる公園を拠点とした他分野とのタッチポイントを意識した多様な活動を期待する。	施策１－１ （１）様々な年代に対するイベントを企画した。気軽に参加できる「個人参加型」の事業や、じっくりと指導を受けることができる「体験型」事業の充実に継続して取り組んだ。 （２）障がい者の運動・スポーツについて、「スペシャルライフコートフェスティバル」で運動・スポーツの楽しさを伝え、継続して取り組みたい方を「個人向け障がい者運動教室」につなぐなど、きっかけを行動につなげられる仕組みを工夫した。 施策１－２ （１）「みる」スポーツの充実のために、民間事業者との連携協定によるプロリーグの試合観戦の機会を増やす取り組みに着手した。 （２）障がい者の参加しやすい運動・スポーツ事業の充実を図った。「障がい者運動教室」は個人向けにも拡大し、様々な運動体験を提供するだけでなく、令和５年３月には味の素スタジアムへ出向き、そこでの運動体験やサッカーの試合観戦をおこなった。 施策１－３ （１）ウォーキングチャレンジでの参加者プレゼントを区制 90 周年に合わせて 90 個に増やすなど、参加者のモチベーションを上げる工夫をおこなった。 （２）チャレンジ期間中にウォーキングイベントを企画するなど、新たな参加者へのアプローチをおこなった。 施策２－１ （１）令和５年度に大谷田地域（予定）にボールが使える公園を開設する見込みとなった。 （２）安心して身近な場所での活動ができるよう、パークで筋トレの指導員講習会を実施した。 施策２－２ （１）民間スポーツ事業者の施設の休館日を借り上げ活用する事業について、令和５年度の予算に反映し、実施予定となった（民間プール活用事業）。 施策３－１ （１）スポーツを支える組織として、活動するメンバーの意識を高めるため、スポーツ推進委員会、体育協会として研修を実施（コンプライアンス、熱中症対策、パラスポーツイベントボランティア経験者の講話など）。より安全に、配慮ある指導を目指した。

令和４年度の評価（令和４年度報告書から）	令和４年度の評価の反映結果（令和５年度評価シートから）
（２）異常気象のもとの運動・スポーツの在り方 今後も、過酷な気象状況（高温、豪雨等）が想定されるため、気象条件に左右されない運動方法として、早朝ウォーキングの推奨、年間を通じた室内プール活用の推奨、熱中症のリスク管理など新たな対策が必要となる。今までの考え方とは違った視点で、運動・スポーツの取り組み方、あり方を検討してほしい。 （３）多文化共生の視点 誰もが「身近で気軽に運動・スポーツを楽しむ」ことを実現するためには、多文化共生の視点も不可欠である。足立区は、２３区内で３番目に外国人が多い地域である。スポーツ施設やイベントにおける通訳や周知のための広報物への表示言語の問題など、配慮ある環境整備が求められる。 （４）インクルーシブな視点からの既存の施設活用 障がい者が気軽に安心して運動できるためには、環境整備も必要である。既存の施設を活用し、例えば週１回など特定の曜日に年代や障がいの種別で場所指定や利用枠を設定するなどの工夫をすることで、多くの方がスポーツに触れる機会を創出してほしい。 ３ 民間や大学との連携による運動・スポーツ活動の広がり 運動・スポーツ活動の広がりのためには、民間事業者と学術研究機関である大学との連携が不可欠である。区の基本理念である「協働・協創」を念頭に行政、民間、大学と力を合わせて魅力ある運動・スポーツ環境を作り出してほしい。そのために下記の点を期待する。 （１）民間トレーナーや民間施設の活用 パークで筋トレは区民のニーズとマッチしており、年々参加者が増えている。パークで筋トレをはじめとした身近な場所での活動に対し、民間トレーナーの派遣を行うことで、より専門的な指導が受けられ、運動へのモチベーションも高まるであろう。 また、区のスポーツ施設のみでなく、民間のスポーツ施設活用も検討の余地がある。民間施設の休館日や、利用者が少ない時間帯などに場所を借り、区の事業を実施することも可能であり、身近で運動できる場の選択肢の広がりにつながるであろう。 （２）大学との充実した連携や学生等ボランティアが活躍できる仕組みづくり 大学が持つ人的資源（教員の専門性、学生）を活用することで、科学的根拠に基づいたプログラムの受講が可能となる。また学生ボランティアが活躍できる仕組みを作ること、足立区のスポーツをささえる人材確保につながるのみでなく、学生のエネルギーは、活動や多世代交流の活性化の起爆剤となろう。そのためには足立区への事業参加を授業に組み込んだり、有償ボランティアにしたりなど、大学生にとっても活動のメリットを感じさせる仕組みづくりの検討をすすめてほしい。	施策３－２ （１）あだちスポーツコンシェルジュが核となり、障がい者だけではなく、健常者グループへのパラスポーツのアウトリーチを実現させた。 （２）体育協会が主催する研修に、スポーツ推進委員、総合型地域クラブの指導員、パークで筋トレの指導員などに声掛けをし、ともに学ぶことができた。

令和4年度の評価（令和4年度報告書から）	令和4年度の評価の反映結果（令和5年度評価シートから）
（3）民間の好事例の情報収集 他分野の連携事業としてすでに民間では様々なことが実施されている。例えば、「ツタヤ conditioning」（電子図書を読みながらランニングマシーンをを使う）などがその一つである。すでに実施されている事例を集め、足立区内での応用可能性を検討してほしい。 また、実業団の指導者とオンラインでつないで指導を受けるといった遠隔指導も始まっている。今後の展開に期待する。 （4）カルチャー（映画や映像等）との組合せ 東京 2020 大会の記録映画の上映があった。このような区が制作した映像以外の映画や映像といったカルチャーを活用し、スポーツへの興味関心を高める取り組みの検討が望まれる。 4 ささえる人材の育成 スポーツを通して「誰一人取り残さない共生社会」を実現するためには、それをささえるための人材が重要である。区民一人一人が、スポーツを通じて社会をささえる意識を形成するために、以下の点を提案したい。 （1）参加のしやすさをささえる合理的配慮や多文化共生の視点 障がい者スポーツには、サポート人材が不可欠である。また外国人や外国人障がい者をささえるには、通訳の課題なども挙げられる。スポーツボランティア育成には、障がい種別ごとの配慮や理解、多文化理解の視点を取り入れることが求められる。 現在行われている初級障がい者スポーツ指導員養成講習会の修了者等が、スポーツボランティアとしてステップアップするためには、競技技術の向上以外に、様々な視点でプレーヤーをささえる配慮や理解を深める講習会の開催が望まれる。また、学んだことを振り返ることができるようなガイドブックの作成などを期待する。 （2）部活動の支援者育成、指導者の質向上 国は、令和5年度の開始から3年後の令和7年度末を目途に段階的に部活動の地域移行を行っていく予定である。 教育現場で行われている部活動は、子どもたちのスポーツの大きな受け皿であり、それをささえる指導者には技術向上のみでなく、子どもの発達・発育の理解、障がい理解、多文化理解、安全管理などの視点を持ってほしい。部活動指導に対する支援者や指導者となる方の人材確保、育成に関する仕組みに関する検討を深め、地域に任せるのではなく、行政が関わりながら指導者の質を担保していったほしい。 （3）多様な方法で「ささえる」を検討 コロナ禍の影響を受け、スポーツの現場で「ささえる」活動を行う機会が急減した。ウイズコロナを鑑み、多様な「ささえる」方法の検討が望まれる。スポーツに関する情報発信をすることや全国の好事例の情報収集をするなど、今までになかった方法で「ささえる」活動を広げる工夫が求められる。	

令和４年度の評価（令和４年度報告書から）	令和４年度の評価の反映結果（令和５年度評価シートから）
特に、情報発信の方法の検討は重要である。足立区独自に取り組むスペシャルクライフコートの活用、スポーツコンシェルジュの運用、地域スポーツミーティングで培った考え方の広がりなど、足立区の施策の区内外への発信に力を入れることや、「自分でもできるかな」「参加したい」「見て、応援してみたい」と思わせる情報発信の工夫に期待する。 （４）地域スポーツミーティングのさらなる展開 地域スポーツミーティングは、区民のスポーツへのニーズを理解したり、スポーツを核とした様々な立場の人の相互理解が促される場である。オランダ連携事業で深まった「スポーツを通じた社会変革」を目指す一助として、ニーズや課題に合わせた形に変えるなど、改めて地域スポーツミーティングの活用を期待する。 ５ 指標に関すること 本計画は、コロナ禍以前に作成されたものであり、各施策および各施策の目標となる指標もコロナ禍以前を想定していた。しかし、ウイズコロナの時代を迎えて施策内容の再検討とともに指標についての再検討も求められる。また国の第三期スポーツ基本計画の内容も踏まえながらの指標の見直しが必要となろう。 特に、全国との比較が可能となる指標として子どもの体力調査を指標として導入することを提案したい。現時点では、足立区の子どもの体力は全国平均を下回っているという実態から、現状を踏まえ各施策を実施し、その効果を検証していったほしい。	

運動・スポーツ活動推進計画 評価実施状況（令和５年度）

令和５年度の助言（令和５年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
１ 誰もが運動・スポーツを身近な存在であると実感できる取り組み 成果指標である「運動・スポーツを週に１回以上実施している」の実績が 35.2%にとどまってしまったという現状を受けて、誰もが運動・スポーツを身近な存在であると感じて取り組むきっかけづくりを促進する方法を検討した。 （１）「運動・スポーツ」の定義と「運動・スポーツ」の価値や意義の啓発の必要性 厚生労働省の eヘルスネットによると運動とは、「身体活動のうち、体力の維持・向上を目的として計画的・意図的に実施し、継続性のある活動」としており、その具体例としては、いわゆるスポーツの内容とともに余暇時間の散歩や活発な趣味も運動として定義されている。 区のアンケートの設問の中で具体的な例示がされていないことで、区民が「運動・スポーツ」の定義を狭く捉えてしまっている可能性があると考えられる。散歩や日常生活で積極的に身体を動かす事（例：階段利用、一駅歩き）なども「運動」であることを明確に伝えていく必要がある。これにより国や都との運動実施率の差や 35.2%という低い成果指標の結果も異なってくる可能性がある。 アンケートでは、スポーツへの関心のきっかけとして、「学校の授業や行事・部活動の経験」が最も多く、続いて「美容・健康を意識して」が挙げた。例えば、運動をしないことで害する健康リスクについてなど、ネガティブな情報を発信し、そのインパクトが「今、身体を動かしておかなければ」というきっかけになることもあろう。様々な伝え方の工夫で、運動・スポーツをする価値を言語化・見える化することで上手にきっかけづくりに導いてほしい。 （２）自宅や職場でできる運動・スポーツの推進と情報発信の強化 パラスポーツのイベントやパークで筋トレへの参加者数は増加しており、ウォーキングやランニングをしている人もよく見かけるようになった。区民の運動への意識が高くなってきていることを日々の生活の中でも実感することが多くなっており、施策の成果として評価できる。 一方で、今まで取り組んだことのない方が運動・スポーツを始めるためには、どの年代でも誰もが取り組める運動・スポーツの情報がまだまだ不足していると感じる。例えば、車椅子の方だけでなく健常者も座位のままできるスポーツやストレッチなどの紹介は区からの情報の中ではなかなか見当たらない。 生活の中でできる簡単な運動のアイデアを、民間スポーツ施設の指導ノウハウを活かしながら動画やホームページなどで紹介するなど、今まで届きにくかった層への発信力を高めてほしい。	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和５年度の助言（令和５年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
また、参加できる運動・スポーツを探す際には、スポーツ関連イベントを集約したカレンダーやネット上の情報ポータルなどがあるとわかりやすい。必要な情報に触れやすくすることで興味が高まり、参加しやすくなるであろう。 （３）運動・スポーツに触れるきっかけづくり 過去１年間に運動・スポーツを「観戦した」と回答した割合は４２．１％と低い。運動・スポーツそのものへの関心を高めるため、区内の身近なヒーローをクローズアップするとよいであろう。さらにその身近なヒーローを日常生活の中で目にする機会を増やしていただきたい。 足立区に縁のあるスポーツ選手の情報を集約するために、区民から情報提供できる工夫を検討して頂きたい。そして様々な機会や媒体を使って彼らの活躍を紹介し、応援・観戦の機会を増やすなど、様々なスポーツに触れられる工夫としてほしい。 ２ 身近な場所で運動・スポーツを楽しめる取り組み 成果指標である「運動・スポーツを行っている場所について『自宅』『自宅周辺』『職場』『職場周辺』と回答した方が６９％となっており目標値である５０％を超えていることは評価できる。しかし、週１日以上スポーツしている人が３５．２％と少ないことから、実際に身近な場所で運動・スポーツを行っている人は多いとは言えないだろう。そこで部会としては、下記の点を助言したい。 （１）地域資源「銭湯」を活用したランニングステーションなどの展開 ランニングは散歩とともにニーズが高い運動である。区内で「歩く」「走る」ことへの価値づけとして、観光資源や文化施設を巡るコースを設定したり、活用することで、新たな区の魅力に気づき、より楽しさが広がると考える。 すでに区内のいくつかの銭湯ではランニングステーションとしての利用が可能であるが、あまりその情報は知られていない。区がシティブロモーションとして活用している「銭湯」を活かしたランニングステーションの展開とその広報を期待する。 また、広い脱衣所を利用したヨガ教室の開催などを組み合わせ「汗を流す」イベントを開催するなど、「銭湯」という地域資源をもっと積極的に運動・スポーツにつなげてみてはどうか。 （２）民間施設との連携の更なる強化 昨年度は、東京ヴェルディ(株)との連携協定による障がい者の運動機会の充実と区民のＪ２サッカー観戦の機会の拡大、それに加えて今年度、新たに民間スポーツ事業者の休館日を活用したプール施設の区民開放を実施したことは評価できる。身近な場所で活動場所をより多く提供するためには、区施設だけではない場所の活用が今後、大きな意味を持つ。 区内には民間のフィットネスジムなども多く点在するので、各施設の休館日利用を工夫するなどし、より多くの方が運動・スポーツに触れる機会を確保していったほしい。	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和５年度の助言（令和５年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
（３）身近な場所以外を選んで活動している方へのアプローチ 区外であえて活動している方は、区内に求めている運動・スポーツの場がないのではないだろうか。例えば、障がい者は広い駐車場やバリアフリーとなっている施設を遠くとも活動の場を選んでいる。また、施設の設備だけではなく、ソフト面での配慮が行き届くことで、誰もが区内施設を選んで使用してみようというきっかけになるのではないか。利用者目線での身近な場所で利用できる場の拡充を民間施設も含めて検討してほしい。 （４）「健康×ポイント×お買い物」などお得感によるアプローチ ウォーキングの歩数や健康診断など運動・スポーツや健康に関する行動などで、ポイントがたまるアプリ利用などを検討してはいかがか。獲得したポイントが、区内の店舗などで利用可能となるような工夫を行うことで、運動・スポーツへのモチベーションが高まることを期待する。 ３ 「スポーツを通じた共生社会の実現」のための取り組み 令和４年３月にスポーツ庁は、「第３期スポーツ基本計画」を提示し、その中で「スポーツを通じた共生社会の実現」を掲げており、東京オリ・パラ大会のスポーツ・レガシーの継承・発展に資する重点施策となっている。足立区では、オランダとの連携により「パラスポーツで社会を変える」を重要テーマとして取り扱っており、今後も継続的な発展に期待したい。 （１）多様な立場の人がスポーツに参加できる環境整備 共生社会の実現として、障がい者、高齢者、子ども、外国にルーツがある人など誰もが参加できるスポーツ環境を整える必要がある。そのためには、それぞれの立場の方が安心して参加できるよう何に配慮すべきか（例えば、感染症対策が徹底されたイベントや空間も必要）、家族が安心して参加させられるイベントはどうすればよいか、それぞれの事業の企画時には、参加対象者に合わせた運営の工夫をさらに期待する。 （２）ともに楽しむコミュニケーションツールとしてのパラスポーツ活用 ～障がい者と健常者がともに汗を流せる機会の提供～ 障がい者スポーツのスタートや継続は当事者意欲に左右されることはもとより、参加しやすい環境とサポーターのさらなる協力・充実が鍵となる。 オリンピック・パラリンピアン の直接指導が受けられる「体験会」の再開やレクボッチャ大会の開催、個人向け障がい者運動教室の開催、学校訪問型パラスポーツ体験事業の実施は大変評価できる。今後は学校教育や学童、放課後子ども教室の中などにも積極的にパラスポーツを取り入れ、誰もが楽しめるコミュニケーションツールとして普及していただきたい。	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和５年度の助言（令和５年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
パラスポーツ体験で覚えた競技を、障がい者とコミュニケーションをとりながら一緒に楽しむことができるようになることが、本当の共生社会の礎をつくるものとなろう。大学連携の試みとして、実際に東京未来大学の学生が障がい者運動教室に参加することで両者ともに楽しむ時間を共有できた。 今後も障がい者や特別支援学校の生徒との交流などの場、障がい者運動教室へのサポート参加などの障がい者と健常者が共に汗を流せる機会を継続してつくれるような検討をお願いしたい。 （３）合理的配慮や理解、安全に関する知識をもったスポーツ関係者や団体、スポーツボランティアの育成 今後普及が見込まれる部活動指導員をはじめ、地域スポーツの指導者、民間のスポーツの指導者、そしてスポーツ参加者や関係者に対して合理的配慮に関する知識や情報を提供し、スポーツを通じた共生社会を実現するための「支える」人材育成を期待する。その際、ハラスメント防止など、法令遵守を徹底した人材育成が求められる。 また、安全面から、昨今の気候変動を受け、炎天下で行われる事業への熱中症対策などの配慮にも留意できる指導者の育成を期待したい。 （４）スポーツを支える人のインセンティブを検討 審判やスポーツボランティアなど、全て善意に頼るのは限界があるため、インセンティブを検討していただきたい。すでに交通費や図書券などの謝礼は支払われていることが多いが、これらのインセンティブでどの程度、支えるスポーツのモチベーションが高まっているか不確かである。スポーツを「支える」ことの魅力を高めるとともに、インセンティブのニーズを把握し、インセンティブの金額や内容の工夫などを検討していただきたい。例えば、交通費に加えて、回数に応じて足立区で使用できる商品券や銭湯無料券などがもらえるとといった工夫の余地はあるであろう。 ４ ３分野連携の実現に向けて ３分野連携事業は、読書・文化・スポーツの３つの計画の共通理念を「楽しさに気づき、深め、広げ、心豊かに生きる」とし、分野間連携を強化しながらつながりをもった計画を立てている。各事業や所管が常に３分野連携を意識していくことで、すでにある資源や施策を有機的に発展することが出来ると考え、以下の点を助言したい。 （１）スポーツ・運動からのアプローチ スポーツや運動に興味がある方への読書のきっかけとして、スポーツや運動に特化した書籍をすすめてみることを提案したい。その際、図書館に運動・スポーツの特集コーナーを作るだけでなく、体育館や民間のスポーツジムなどに移動図書館などを設置して運動直後に書籍を手にとれるような工夫ができる。また文化・芸術との連携であれば、ランニングマシンを使いながら映画鑑賞できたり音楽が聴けたりするサービスなども検討可能であろう。	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和５年度の助言（令和５年度報告書から）	令和５年度の助言の反映結果（令和６年度評価シートから）
（２）所管同士の連携について すでにある事業に運動・スポーツの意味を持たせることを提案したい。例えば、危機管理部の「ながら見守り」は「散歩」という側面がある。すでにあるものを「運動・スポーツ」という側面から意味づけを行うことで、既存の事業を活かすことが出来る。 現在の事業一覧に、まだ網羅されていない事業もあるため、情報を把握し、その事業に参加したことで「運動・スポーツ」に自然と参加できたという区民の意識を高めてほしい。 （３）大学連携 読書をはじめとする学びの連携で、運動・スポーツに関する足立区内の大学の教員の書籍を紹介したり、スポーツのイベントで学びブースとして研修会などの講座を開設したり、運動、文化、読書（学び）に関する大学の公開講座なども併せて紹介することを提案したい。	令和６年２月に計画を改定した直後であったことから、令和６年度評価（令和５年度実施事業分）は実施しなかったため、こちらは空欄となります。 なお、令和５年度の助言は、並行して実施していた計画改定作業の参考とし、可能な限り計画改定版に反映しています。

令和7年度 アンケート調査項目一覧(16 歳以上用)(案)

分析の視点を以下の項目で整理し、設問との対応を表に記載しています。

- 1 各分野がひとやまちにもたらす効果を検討する
- 2 関心・行動の度合いを高めるターゲットを絞り込む
- 3 ターゲットに応じた施策を検討する
- 4 経年変化、施策・取組の達成状況等を把握する
- 5 コロナ禍の影響を把握する
- 6 その他

(1)一般区民向け調査

	設問	分析の視点						ねらい	所管課検討案				
	性・年代等の基本属性について	1	2	3	4	5	6		新規	継続	削除	変更	→ (変更の場合) 変更理由・変更内容
1	性別		○	○	○			分析軸として活用します。(例:年代、年代-性別 等)					
2	年代(5歳年齢階級)		○	○	○			分析軸として活用します。(例:未成年、若年層、高齢者 等)					
3	居住地区		○	○	○			分析軸として活用します。(例:地域学習センターの設置地区 等)					
4	職業		○	○	○			分析軸として活用します。(例:職業の有無別)					
5	子どもの有無		○	○	○			分析軸として活用します。(例:子どもの有無別)					
6	18 歳未満の子どもの人数		○	○	○			分析軸として活用します。					
	文化・読書・スポーツに対する関心について	1	2	3	4	5	6	ねらい					
7	文化・読書・スポーツの関心の有無	○	○	○	○		○	各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					

8	(文化に関心ある人のみ) 文化に関心を持つようになったきっかけ			○	○			文化芸術における関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
9	(読書に関心ある人のみ) 読書に関心を持つようになったきっかけ			○	○			読書における関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
10	(スポーツに関心ある人のみ) スポーツに関心を持つようになったきっかけ			○	○			運動・スポーツにおける関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
	文化芸術について	1	2	3	4	5	6	ねらい				
11	関心のあるジャンル			○				関心のあるジャンルを把握します。				
12	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
13	(鑑賞したことがある人のみ)鑑賞の仕方(区内・区外)	○			○			「受動的に」「一人で」「主体的に」の視点で鑑賞の仕方を把握します。主体的に鑑賞する人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
14	(鑑賞したことがない人のみ)鑑賞しなかった理由			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
15	文化芸術に関わるイベント・講座の参加の有無	○			○			参加・活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
16	(参加した人のみ)参加後の文化芸術に関わる行動	○			○			参加後の文化芸術に関わる行動の実態を把握します。				

17	文化芸術に関わる活動の参加の有無	○			○			文化芸術に関わる活動への参加の実態について把握します。				
18	(活動している人のみ)活動の仕方	○			○			活動への関わり方について把握します。				
19	区内や地域の伝統芸能や文化財などの鑑賞・体験の有無	○			○			区内や地域の伝統芸能や文化財などの鑑賞・体験の実態について把握します。				
20	文化芸術を楽しむ人が増えるために必要な施策			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
	読書について	1	2	3	4	5	6	ねらい				
21	最近1ヶ月間における読書活動の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
22	(本を読んだ人のみ)読書の仕方	○			○			読書の仕方について把握します。				
23	(本を読まなかった人のみ)本を読まなかった理由			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				
24	電子書籍を活用した頻度	○	○		○		○	電子書籍を活用した頻度について把握します。				
25	過去1年間でおこなった読書活動	○			○			活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
26	図書館を利用する目的			○	○			図書館のサービスニーズを把握し、施策を検討するために活用します。				
	運動・スポーツについて	1	2	3	4	5	6	ねらい				
	運動習慣・健康意識の関連							多様なライフステージに応じた運動習慣の定着を把握します。	○			(1)「あなたは、健康のために意識的に身体を動かすようにしていますか？」

													1.意識している／2. あまり意識していない／3. 意識していない (2)「日常生活の中で、意識して体を動かすような行動をとっていますか？(複数選択可)」 ①階段を使うようにしている ②一駅分歩くようにしている ③自転車を利用している ④買い物ついでに散歩するようにしている ⑤特に意識していない
	運動機会の希望・ニーズ把握								○				(1)「どのような運動・スポーツプログラムがあれば参加してみたいですか？(複数選択可)」 ①初心者向けのストレッチやヨガ ②シニア向けの健康体操 ③家族で参加できるイベント ④障がいのある人と一緒に楽しめるプログラム ⑤スポーツ体験イベント(種目体験など) ⑥特にない (2)「運動・スポーツをする際に、どのような支援や環

													境整備があればより取り組みやすくなりますか？」 ①子どもを預けられる託児サービス ②費用の補助 ③気軽に使える公園・広場の整備 ④指導者や仲間とのマッチング機会 ⑤障がい者にも利用しやすい施設整備
	地域連携・ボランティア視点								○				(1)「地域で開催される運動・スポーツイベントに参加したことがありますか？」 ①ある(どのようなイベントか記入) ②ない (2)「スポーツイベントや教室の運営にボランティアとして関わりたいと思いますか？」 関わりたい／条件が合えば関わりたい／関わりたくない
27	過去1年間における運動・スポーツの実施の有無	○	○	○	○		○	関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○			
28	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施頻度	○	○		○		○	運動・スポーツの実施頻度について把握します。		○			
29	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施場所			○	○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。		○			

	実施した人の効果実感						実施の有無ではなく、質的な充実感や身体的・精神的効果を捉えることで、スポーツ政策の成果把握をする。	○				現在の質問(問27~29)は「やったか／頻度／場所」が中心で、「やってどうだったか？」には踏み込んでいない。
30	(実施しなかった人のみ)運動・スポーツをしなかった理由			○	○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				○	選択肢が多すぎて回答者に負担感あり。内容の重複も散見。 簡潔な分類(例:「時間・体力」「仲間・心理的要因」「施設・環境」「金銭面」)にまとめ直す。
31	過去1年間における運動・スポーツの観戦の有無(トップスポーツ・地域の運動会)	○			○		観戦している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。		○			
32	(観戦したひとのみ)観戦の仕方(区外・区内)	○			○		観戦の仕方について把握します。				○	「観戦経験がある」人の動機を1問にまとめて簡略化 例:どのようなきっかけで観戦しましたか? → 家族・友人の誘い／自分で調べた／たまたま見つけたなど
33	(観戦しなかった人のみ)観戦しなかった理由			○	○		観戦しなかった理由について把握します。			○		観戦習慣がある層は限られており、この問の優先度は相対的に低い。
34	過去1年間における運動・スポーツの支える活動の有無	○			○		活動している人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための		○			

							要素等が肯定的な結果を示すと考えています。					
35	(活動しなかった人のみ) 活動しなかった理由			○	○		活動しなかった理由について把握します。		○			
	文化・読書・スポーツに関 わる活動について	1	2	3	4	5	6	ねらい				
36	文化・読書・スポーツを楽 しむ人が増えることによ るまちへの効果	○			○			各分野における関心・行動の度合 いが高い人ほど、まちへの効果に 対して肯定的な回答が多いと考 えています。				
37	「ちよいスポ」・「ちよいカ ル」・「●●読み」キャン ペーンの認知度		○	○	○			取組の認知度(参加状況)を把握 します。				
38	「ちよいスポ」・「ちよいカ ル」・「●●読み」キャン ペーンへの参加希望		○	○	○			取組への参加希望の実態を把握 します。				
39	コロナ禍を経て3分野に 充てる時間の変化につい て			○		○		(行動)3分野の活動の実態を把 握します。				
40	コロナ禍を経て3分野の 活動の満足度について			○		○		(行動)3分野の活動の意識(満足 度)を把握します。				
41	コロナ禍を経て3分野の 活動の仕方の変化につい て			○		○		3分野の活動の仕方の変化を把 握します。				
42	コロナ禍を経て3分野の 活動の仕方における対面 での実施の重要性に関す る意識変化			○		○		3分野の活動の仕方における対 面での実施の重要性に関する意 識変化を把握します。				
	あなたの日常生活につい て	1	2	3	4	5	6	ねらい				

43	人生100年時代を心豊かに生きるための要素(意欲)に関するあてはまり	○			○		各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、人生100年時代を心豊かに生きるための要素等が肯定的な結果を示すと考えています。				
44	人生100年時代を心豊かに生きるための要素(実践)に関するあてはまり	○			○		意欲から実践へのつながりの度合いについて把握します。				
45	ご近所づきあいや地域活動の有無	○			○		各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、社会関係資本を持つ回答者が多いと考えています。				
46	(ご近所づきあいや地域活動をしない人のみ)ご近所づきあいや地域活動をしない理由		○				ご近所づきあいや地域活動をしない理由について把握します。				
47	区内の人とのつながりの有無	○			○		区内の人とのつながりの実態について把握します。				
48	足立区に対する愛着・誇り・推奨、可処分時間・所得の程度	○	○	○	○		各分野における関心・行動の度合いが高い人ほど、シビックプライド(愛着・誇り・推奨)が肯定的な結果を示すと考えています。可処分時間・所得のない人ほど、各分野における関心・行動の度合いが低いと考えています。関心・行動を高めるターゲットを明確にする際に活用します。				
49	自由回答(文化・読書・スポーツ)					○	各分野に対する区民の意見を把握し、必要に応じて計画内容を検討するための資料とします。				

令和7年度 アンケート調査項目一覧(小5・中1用)

分析の視点を以下の項目で整理し、設問との対応を表に記載しています。

- 1 各分野がひとやまちにもたらす効果を検討する
- 2 関心・行動の度合いを高めるターゲットを絞り込む
- 3 経年変化、施策・取組の達成状況等を把握する
- 4 コロナ禍の影響を把握する

(1)小5・中1向け調査

①保護者向け調査

	性・年代等の基本属性について	1	2	3	4	ねらい	所管課検討案				
							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容
1	回答者自身の性別		○	○		分析軸として活用します。					
2	回答者自身の年代(5歳年齢階級)		○	○		分析軸として活用します。					
3	お子さんとの関係		○	○		分析軸として活用します。					
	あなたの文化・読書・スポーツに対する関心・行動の度合い	1	2	3	4	ねらい					
4	文化・読書・スポーツの関心の有無		○	○		各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
5	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
6	最近1ヶ月間における読書活動の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
7	過去1年間における運動・スポーツの実施の有無		○	○		関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
8	(実施した人のみ)運動・スポーツの実施頻度		○	○		運動・スポーツの実施頻度について把握します。					
	運動・スポーツを実施しなかった理由					運動・スポーツを実施しなかった理由を把握します。	○				(1)あなたが運動・スポーツをしなかったのは、どんな理由があったと思いますか(○はいくつでも)

										①一緒にする人がいなかった ②あまり楽しくなかった ③時間がなかった ④外であそぶ場所がなかった ⑤体の調子がわるかった ⑥家の人に止められた／しんぱいされた ⑦別のことをしたかった(ゲームなど) ⑧その他()
9	可処分時間・所得の程度(回答者自身・お子さんのため)	○	○	○		分析軸として活用します。特に、保護者の可処分時間・所得のない家庭の子どもほど、各分野における関心・行動の度合いが低いと考えています。関心・行動を高めるターゲットを明確にする際に活用します。		○		
10	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の変化について		○		○	(行動)3分野の活動の実態を把握します。		○		
11	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について		○		○	(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。		○		
	あなたのお子さんのことについて	1	2	3	4	ねらい				
12	お子さんの性別		○	○		分析軸として活用します。				
13	お子さんの対処能力のあてはまり	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い子どもほど、対処能力のあてはまりが肯定的な結果を示すと考えています。				
14	お子さんの学校以外での文化的な活動の有無	○		○		活動している子どもほど、対処能力や自己肯定感のあてはまりが肯定的な結果を示すと考えています。				
15	お子さんが文化・読書・スポーツを楽しむことで得られるもの	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い保護者ほど、各分野を楽しむことで子どもが得られるものに対して肯定的な回答が多いと考えています。				
	お子さんの小学校入学直前1年間の様子について	1	2	3	4	ねらい				

16	文化・読書・スポーツの関心のうち、お子さんが好きだったこと		○	○		未就学児の頃について、各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。				
17	お子さんの文化芸術的な活動の有無	○	○	○		未就学児の頃について、文化芸術活動の実態を把握します。				
18	お子さんが本を読んでいたかどうか	○	○	○		未就学児の頃について、読書活動の実態を把握します。				
19	お子さんにおける本を読む以外の読書に関わる活動の有無	○	○	○		未就学児の頃について、運動・スポーツ活動の実態を把握します。				
20	お子さんの運動・スポーツの実施頻度	○	○	○		未就学児の頃について、運動・スポーツの実施頻度について把握します。				
21	(お子さんに文化・読書・スポーツをさせなかった人のみ) させなかった理由			○		未就学児に対して、関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。				

②児童・生徒向け調査

	3分野への関心について	1	2	3	4	ねらい	所管課検討案				
							新規	継続	削除	変更	(変更の場合) 変更理由・変更内容
1	文化・読書・スポーツの関心の有無	○	○	○		各分野における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
	文化芸術について	1	2	3	4						
2	過去1年間における文化芸術の鑑賞の有無	○	○			文化芸術における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					
3	(鑑賞していない人のみ) 鑑賞するようになるきっかけ		○			関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
	読書について	1	2	3	4						
4	最近1ヶ月間における読書活動の有無	○	○	○		読書における関心・行動の度合いを把握するために活用します。					

5	(本を読んだ人のみ)読書の方法		○			読書の仕方について把握します。					
6	(本を読まなかった人のみ)本を読むようになるきっかけ			○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。					
7	電子書籍を活用した頻度		○			電子書籍を活用した頻度について把握します。					
8	学校の図書館・図書室に行く頻度			○		学校の図書館・図書室の利用状況を把握し、利用していない子どもがどのくらいいるのかを把握します。					
9	(学校図書館に行く人のみ)学校の図書館・図書室に行く目的			○		学校の図書館・図書室の利用目的を把握し、利用を促進するための施策を検討するために活用します。					
スポーツについて		1	2	3	4						
	実施場所					運動・スポーツを実施する場所を把握します。	○				(1)「どこで運動・スポーツをしましたか？」 ①学校の中 ②学校の外(公園など) ③家の中 ④ならいごとの場所 ⑤特に決まった場所はない
	効果実感					質的な充実感や身体的・精神的効果を捉えることで、スポーツ政策の成果把握をする。	○				(1)運動やスポーツをした後、どんな気持ちや変化がありましたか(○はいくつでも) ①楽しかった ②ストレスがすっきりした ③気持ちが元気になった ④眠れるようになった ⑤風邪をひきにくくなった ⑥体が鍛えられた ⑦友達が増えた ⑧自信がついた ⑨特に何も感じなかった ⑩その他()
	実施のきっかけ・動機						○				(1)どんな時に「うんどう・スポーツをしたい」と思いますか(○はいくつでも) ①友達と一緒にできるとき

										②学校や児童館でイベントがあるとき ③テレビやYouTubeなどで見たとき ④コーチや先生にほめられたとき ⑤自分が上手くなったと感じたとき ⑥運動をする時間があったとき ⑦特にない
10	1週間あたりの運動・スポーツの実施頻度	○	○	○		運動・スポーツにおける関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○		
11	(実施していない人のみ)実施するようになるきっかけ			○		関心・行動の度合いを高めるための施策を検討するために活用します。		○		
12	スポーツ観戦の有無		○			スポーツ(観戦)における関心・行動の度合いを把握するために活用します。		○		
	自己肯定感・主観的健康観について	1	2	3	4					
13	自己肯定感・主観的健康観のあてはまり	○		○		各分野における関心・行動の度合いが高い子どもほど、自己肯定感・主観的健康観が肯定的な結果を示すと考えています。				
	あなたの日常生活について(コロナ禍での変化)	1	2	3	4	ねらい				
14	コロナ禍を経て3分野に充てる時間の変化について。		○		○	(行動)3分野の活動の実態を把握します。				
15	コロナ禍を経て3分野の活動の満足度について。		○		○	(行動)3分野の活動の意識(満足度)を把握します。				